

第二十二回 貴族院議事速記録第十二號

明治三十九年三月六日(火曜日)

午前十時九分開議

議事日程 第十二號 明治三十九年三月六日

午前十時開議

第一 侯爵尙典君請暇ノ件

第二 明治三十九年度歳入歳出總豫算案並明治三十九年度各特別會計歳入歳出豫算案(政府提出案)

第三 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(政府提出案)

第四 臨時軍事費豫算追加案(政府提出案)

第五 明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)(政府提出案)

第六 明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)(政府提出案)

第七 明治三十八年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)(政府提出案)

第八 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)(政府提出案)

第九 內國官憲ノ管掌ニ屬スル事項ニ付統監ノ職權ニ關スル法律案(政府提出案)

第十 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉臺灣總督府鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル法律案(政府提出案)

第十一 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉貯蓄銀行法案(政府提出案)

第十二 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉明治三十八年勅令第九十四號承諾ヲ求ムル件(政府提出案)

第十五 貴族院議事速記録第十二號

第十六 右議案ノ審査ヲ付託スヘキ特別委員ノ選舉
第十七 作業會計法中改正法律案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
第十八 輸出羽二重精練業法案(政府提出案) 第一讀會ノ續(特別委員) 長報告
第十九 韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案(政府提出案) 第二讀會

○議長(公爵徳川家達君) 諸般ノ報告ハ本日モ省略イタシマシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者多シ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ハ無イト認メマス

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

去ル三日本院ニ於テ議決シタル左ノ法律案ハ即日裁可ヲ奏請シ及可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

鐵道敷設法中改正法律案

災害地方田畑地租免除ニ關スル法律案

同日衆議院ヨリ左ノ同院提出案ヲ受領セリ

會計法中改正法律案

渡良瀬川沿岸地方特別地價修正法律中改正法律案

裁判所構成法中改正法律案

同日議員子爵山井兼文君辭職ニ付其ノ補闕選舉ヲ奏請セリ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ今日ノ議事日程ニ移リマス、議事日程第一、侯爵尙典君請暇ノ件、是ハ病氣ニ付テ會期中請暇デゴザイマス、御異議ガ無ケレバ許可ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ御諮リ致シマスガ、豫算委員長ノ報告ハ議事日程ノ第二カラ第八マデ東ネテ報告ヲ煩ハシテ宜カラウト存ジマスガ、如何デゴザイマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無ケレバ左様イタシマス、豫算委員長正親町伯爵

〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス〕

一 明治三十九年度歳入歳出總豫算案

一 明治三十九年度各特別會計歳入歳出豫算案

一 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

一 臨時軍事費豫算追加案

一 明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案(第一號)

一 明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案(第二號)

一 明治三十八年度各特別會計歳入歳出豫算追加案(特第一號)

一 豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件(追第一號)

右衆議院ヨリ送付シタル各案ヲ審査シ總テ衆議院議決案ノ通可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年三月五日

豫算委員長 伯爵正親町實正

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵正親町實正君演壇ニ登ル〕

○伯爵正親町實正君 豫算委員會ノ經過並ニ結果ヲ御報告申上ゲマス、此度政府ヨリ提出ニナリマシタ所ノ豫算ハ總豫算ニ於キマシテ、計上サレマシタ所ノ金額ガ四億九千二百萬圓、大數ダケ申シテ端數ハ省キマス、臨時軍事費ガ四億五千萬圓、臨時事件豫備費追加七百二十萬圓、此三口ヲ合計イタシマスト九億五千萬圓ト云フ高ニナッテ居リマス、ソレデ本年ノ豫算ハ三口ヨリ成立ッテ居リマシテ、例年ノ豫算ニ較ベマスト聊カ錯雜ヲ致シテ居ル譯デアリマス、尙ホ此外ニ昨年ノ末ニナリマシテ緊急支出ヲ要シマスル爲ニ 勅裁ヲ經テ政府ハ責任支出ヲサレタ金ガゴザイマス、ソレハ臨時軍事費ノ中ニ於キマシテ六千萬圓、臨時事件豫備費ノ中ニ於テ二千八百萬圓餘ニナッテ居リマス、總テヲ合セマスト十億三千萬圓餘ト云フコトニナルデアリマス、尙ホ此外ニ三十八年度ノ追加ト致シテ四千六百萬圓餘ノ要求ガゴザイマスルガ、是ハ重モニ公債ノ銷却ニ充テル所ノ金デゴザイマス、尙ホ其外ニモ少シハ他ノ支出モゴザイマスルガ、重モニ公債ノ銷却ニ充テル金デアッテ、且又此財源ハ此間公債整理ノ爲ニ英國ニ於テ募集サレタ所ノ二千五百萬磅ノ中カラ支辨スルコトニナッテ居リマス、ソレハ大體ノ豫算ノ上トハ關係ガ違ッテ居リマス、是ハ別物トナッテ居リマス、ソコデ此十億三千萬圓ニ對シテ財源ハドウ云フコト

ノ經畫ニナッテ居ルカト申シマスレバ、二億三千六百萬圓餘ガ普通歳入デアリマス、一億六千萬圓ガ非常特別稅ヨリノ歳入デアリマス、其他既ニ募集濟ニナッテ居リマス、斯ノ如キモノヲ差引キマシテ結局四億三千萬ト云フモトガ不足ニナリマス、是ガ全ク公債支辨ヲ仰ガナクテハナラス高デゴザイマス、併ナガラ其中一億五千萬圓ト云フモノハ論功行賞費ニ充テテアリマスカラ、是等ハ預金部ニ置キマシテ、漸次公債ヲ以テ賜リマスモノデアリマスカラ、直接費用ニ關係セヌコトニナリマス、差引キ二億八千萬圓ハ一般市場ニ於テ募集スルコトニナリマス、此中ノ二億萬圓ト云フモノハ既ニ此間、諸君ノ御協贊ヲ經マシテ政府ニ於テ唯今募集シツ、アル高デアリマス、殘ッタ八千萬圓ハ本年ノ末ニ至リマシテ財政ノ情況ニ依リマシテ更ニ募集シマスカ、他ニ振向ケマスカ、政府ノ都合デ支辨スルト云フコトニナリマス、ソレデ尙ホ前ニ戻リマシテ總豫算ノ四億九千二百萬圓ト云フモノノ大別ヲ申上ゲレバ、其中二億三千萬圓ハ尋常ノ歳出ニナッテ居リマス、ソレカラ二億五千七百萬圓ト云フノハ時局ニ關係シタ費用ニナッテ居リマス、此時局ニ關係シマシタ費用ハ尙ホ大別イタシマスレバ、經常費ニ屬シマスモノガ一億一千萬圓ハ國債償還ノ基金繰入ニナリマス、一千萬圓ハ陸軍ノ擴張費、四百二十七萬圓ハ海軍ノ擴張費、三千二百萬圓ハ恩給年金及賑恤金等ニ當リマス、其他ハ徵稅費、滿韓樺太ノ郵便電信費等ニナリマス、之ヲ合計イタシマスト一億七千二百六十萬圓ニナリマス、殘リノ八千四百五十萬圓ト云フモノハ是ハ臨時事件費ノ豫備費トナッテ計上サレテアリマス、此臨時事件豫備費ニ付キマシテ大體ノ内譯ヲ申上ゲマスレバ、是モ主トシテ陸海軍ニ屬シマス費用ガ多ウゴザイマス、陸軍省所管ニ屬シマスモノガ四千五百萬圓、是ハ重モニ復舊費其他滿韓ノ派遣軍隊ノ費用ニナッテ居リマス、海軍省所管ニ屬シマスモノガ二千七百萬圓餘ニナッテ居リマス、是モ重モニ復舊費デゴザイマス、ソレカラ大藏省所管ハ千何萬圓ト申スモノデ、種々ナル口ニ分レテ居リマスガ、重モナルモノハ公債製造及發行費、勳章勳記製造費、或ハ韓國統監府及理事廳ノ經費、鹽ノ專賣施行準備費等ガ重モナルモノデ、其他ハ少シツ、ノ數口ニ分レテ居リマス、ソレカラ外務、内務、文部、農商務、遞信ニ至リマシテモ、少シツ、ノ額ガ増加ニナルコトニナッテ居リマス、大體ノ豫算ノ編製ハサウ云フコトニナッテ居リマス、衆議院ニ於キマシテハ此臨時事件豫備費ノ中カ

ラシテ五百萬圓削減ニナツテ居リマス、是ハ陸海軍ノ復舊費ノ中カラ削減ヲシテ貫ヒタイト云フ譯デ削減ニナリマシタ、政府モ是ニハ同意ヲサレテ居リマス、其他ニ於キマシテハ最早少シモ衆議院ニ於キマシテハ修正等モゴザイマセズ、總テ政府原案ノ通ニナツテ居リマス、歳入ニ於キマシテハ別段申上ゲル事モゴザイマセヌガ唯、唯今ノ臨時事件豫備費ノ中ノ削減ノ結果トシテ、公債募集金ノ中カラ五百萬圓減少ニナツテ居リマス、是ハ右ノ結果カラシテ減少シタ譯デアリマス、ソレデ委員會ニ於キマシテハ、種々審議ヲ盡シマシテ質問等ハ種々ゴザイマシタ、尙ホ二三ノ委員ヨリハ將來ニ向ッテノ希望モ段々述ベラレタコトモゴザイマスル、併シ是等ハ總テ速記録ニゴザイマスルカデ、速記録ヲ御覽下サイマスレバ詳細ノコトハ御分リニナルコト考ヘマサルカラ、唯今此所デハ省略イタシマス、要シマスルニ委員會ニ於キマシテハ右ノ外、審議ヲ盡シマシタ結果、少シモ修正等ハ企テズ、總テ衆議院送付案ノ通ニ可決ニナリマシタコトデゴザイマス、ソレカラ各特別會計歳入歳出豫算案、豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、是等モ全部衆議院送付案通ニ可決ニナリマシタ、唯其豫算外國庫ノ負擔トナルベキ契約ヲ爲スヲ要スルノ件ノ中ニ、衆議院ニ於キマシテハ、第十二ノ濠洲線航路補助費、此契約年限ニ修正ヲ加ヘテゴザイマス、原案ハ五箇年ト云フ所ヲ衆議院ハ二箇年ニ修正ニナツテ居リマス、其他ハ矢張り少シモ修正ハゴザイマセヌ、是モ委員會ニ於キマシテハ異議ナク衆議院ノ修正通ニ決シマシタ、次ニ臨時軍事費豫算追加案、是モ同様何等ノ異議ナク原案通可決ニナリマシタ、其他第五カラ第八ニ至リマスルマデ總テノ豫算案モ、前申上ゲマシタ如ク何等ノ異議ナク全部衆議院ノ送付案通リ可決イタシマシタ、大體御報告申シマス

〔西村亮吉君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 西村君ハ何デスカ

○西村亮吉君 此豫算總體ニ付キマシテ意見ヲ申述ベタウゴザイマス

○子爵谷干城君 チョット伺ヒマシマスガ、總理大臣ハ此際何ゾ御述ベニナルデアリマセウガ、一向近來、近來ト云ウテハラカシイガ、御顔ヲ拜見セヌヤウニゴザイマシマスガ、チト御顔ヲ拜見シタイ

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ議事日程第二、明治三十九年度歳入歳出豫算案並ニ明治三十九年度各特別會計歳入歳出豫算案ノ會議ヲ開キマス

○西村亮吉君 此總豫算ニ付キマシテ意見ヲ述ベタウゴザイマス
○議長(公爵徳川家達君) 西村君ニ御注意イタシマスガ、唯今議長ガ宣告ヲ致シマシタノハ、豫算案ノ會議デゴザイマス、御意見ヲ御述ベニナルノデスカ

○西村亮吉君 此三十九年度ノ歳入歳出總豫算ニ付キマシテ意見ヲ述ベマス

○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ヲ願ヒマス

○西村亮吉君 宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵徳川家達君) 御登壇ヲ願ヒマス

〔西村亮吉君演壇ニ登ル〕

○西村亮吉君 諸君、私ハ本年ニ於キマシテモ臨時軍事費四億五千四十五萬圓ヲ要求セラル、場合デアリマスルカラ、三十九年度ハ政府ニ於キマシテモ議院ニ於キマシテモ戰時中ト心得テ萬事節約ヲセネバナラヌ時デアルト信ジテ居リマスル、依ッテ三十九年度ノ豫算ハ節約ニ節約ヲ加ヘテ三十八年度ノ豫算ニ超過シテ居リマスル所ノ金額ハ萬已ムヲ得ザルモノノ外ハ削減スル積リデゴザイマシテ、豫算委員會デ意見ヲ述ベマシタガ賛成ヲ得マセナシタ、付キマシテハ更ニ希望ヲ述ベマシテ内閣大臣ノ御參考ニ供シタイト思ヒマスル、暫ク御耳ヲ煩ハシマス、諸君、此日英同盟ヲ繼續シマシテ之ヲ擴張サレルコトハ東洋平和ヲ維持スル上ニ於キマシテ大慶至極デゴザイマス、政府ハ此平和期間ニ於テ民力ヲ休養シ國本ヲ培養セラル、コトト思ウテ居リマシタ、所ガ豈圖ラムヤ非常特別税ノ既定同法廢止年限ヲ削除イタシマシテ永久ニ徵税スルコトニナリマシタ、實ニ國家ノ爲ニ遺憾千萬デアリマス、私ハ三十九年度ノ大豫算ヨリ推測シマスルト繼續費ノ此豫算ニ現ハレテ居リマス所ノ年度割ノ金額ハ、四十年ニ於キマシテハ三十九年度ニ於ケル金額ヨリモ一千八十九萬五千餘圓多クナツテ居リマス、此豫算ニ現ハレマセヌ年度割ノ金額モ少クハナイト存ジマス、然ラバ前途ノ財政經畫ハ如何ニセラレテ居ルコトデアラウカト考ヘマシテ、豫算委員會ノ節、四十年度ノコトニ付キマシテ質問ヲ致シマシタ、其節大藏大臣ハ大體ニ於テ滿洲ノ問題其他ニモ決定セヌコトガ色ミアル、是等ガ決定サレヌ中ニハ四十年度ニ於テハ大凡ドウ云フ經畫ニスルト云フコトハ明ニ申サレヌト、斯ウ答ヘラレマシタノデアリマス、此御答デ前途ノ財政經畫ガ立ッテ居ラヌト云フコトガ明カサノデアリマス、前途ノ財政經畫ノ立タザルニ此大豫算ヲ提出セラル、ヤウデハ、將來ノ財政ガドウナリマ

スルコトカト甚ダ懸念ヲ致シマス、又我が國債ハドウカト申シマスルト、戰時申即チ三十七年八年ノ募債ハ内國債五回デ四億八千萬圓デア、又外國債ガ五回デ十三億二千萬圓、三十九年度ガ公債ニ仰ガレテ居ルモノガ臨時軍事費ガ四億五千四百五十五萬、通常豫算中デ七千五百八十四萬三千餘圓デアリマス、之ヲ合計シマスルト、二十三億二千六百二十九萬三千餘圓デアリマス、此上ニ三十六年度現在ノ國債ヲ加ヘマスル、即チ五億四千二十九萬三千、之ヲ總計イタシマスルト二十八億六千六百六十八萬六千圓ト云フモノニ相成リマス、右ノ内内國債ノ二億圓、外國債ノ二億圓ハ追々償還サル、コトニナツテ居ルト申シマスルノデ、ソレヲ差引キマスルト二十四億六千六百六十八萬六千餘圓ト相成リマス、此二十四億六千六百六十八萬六千ト云フ國債ハ我が國力ニ相當イタシテ居ルト言ウテ宜シウゴザイマセウカ、如何デゴザイマス、我が國ノ力：：國力ト云フモノハドレ程アルカト申シマスルト、キツチリ判然トハ致シマセヌ、多少取調ニ依ツテ相違ガアリマスル、井上内務書記官ノ調ベラレタノモアリマス、又中島永元君ノ調ベラレタモノモアリマス、又前ノ統計局長ノ石橋重朝君ガ調ベラレタモノモアリマス、又前ノ長崎縣知事ノ日下君ノ調ベラレタモノモアリマス、又日本銀行デ調ベラレタモノモ見マシタ所ガ、何レモ大體百二十億内外デゴザイマス、尤モ其中ニ日下君ノ調ベラレタモノガ百五十億ト云フコトニナツテ居リマスルガ、是ハ土地ヲ百億ト積ツタ調ベニナツテ居リマス、是ダケガ違ヒマス、昨年又相續稅ヲ發行セラ、ル、ニ付キマシテ其筋デ調査セラレタト云フモノヲ見マスルト百三十五億五千四百九十萬圓餘ニナツテ居リマス、是ニ依ツテ考ヘマスルト先ヅ我が國力ト云フモノハ百三十億以内デアラウト存ジマスル、シテ見ルト此所得ハ一割ト見積リマスルト十三億圓ニ相成リマス、我が國債ハドウカト云フト、二十四億六千六百六十八萬六千圓餘ニナツテ居リマス、所得ノ殆ド二倍ニナツテ居リマス、是ガ我が國力ニ對シテ過分ナ國債デナイト言ハレマセウカ、如何デゴザイマセウ、又輸出輸入ト云フモノハドウナツテ居ルカト申シマスルト、三十六年ハ輸出ト輸入トノ總計ガ六億六百六十三萬七千九百六十圓トナツテ居リマス、輸入ノ超過ガ七千七百六十三萬三千七百七十五圓ニナツテ居リ、又三十七年ハ總計ガ六億九千九百五十五萬四千四百三十四圓ト云フモノニナツテ居リマス、輸入ノ超過ハ五千二百二萬九千六百四十三圓ト云フモノニナツテ居リマス、又三十八年ハ總計ガ八億一千七萬六千六百十圓ニナツテ居リマスガ、此

輸入超過ハ一億六千七百萬四千四百七圓ト云フモノニナリマス、此三十七年ト三十六年トノ輸出ノ比較ヲ致シテ見マスルト、七千九百七十五萬八千四百五十三圓増加ヲ致シテ居リマス、輸入ハドレホド増加シテ居ルカト申スト、五千四百十五萬五千二十一圓ノ増加ニナツテ居リマス、シテ見ルト前年度ニ比較シテ見マスルト輸出ガ多クナツテ居リマス、所ガ三十八年ハドウカト申シマスルト、三十七年ニ比較イタシテ輸出ノ増加ハ僅ニ二百二十七萬二千七百十五圓ノ増加ニナツテ居リマスルガ、之ニ反シテ輸入ハ一億七千四百四十萬二千五百圓増加ニ相成ツテ居リマスル、斯ノ如ク輸入ノ超過ト云フモノガ年々多ク相成リマシテハ實ニ安カラヌ次第デアリマス、然ルニ此三十七年ニ我が輸出ノ多クナツテ居ッタト云フモノハ、官民共ニ警戒ヲ加ヘテ居ッタ爲ニ物産ノ輸出上ニ於テ發達ガ見エタノデヤナイカト思ヒマス、又三十八年ハ連戰連捷ニ依ツテ一般ニ驕慢ニナッタ爲ニ物産ノ輸出上ニ於テ萎靡シタモノカ、又ハ壯丁ガ皆戰地ニ出兵シタ爲ニ比較上發達ヲ見ナイノデヤナイカ、ドウデアラウカト存ジマス、此勢デ推移ツテ參リマスルト、年々輸入超過ガ夥シク相成ツテ參リマスル、デ一兩年ヲ出デズシテ正貨準備ニ大恐慌ヲ來タスコトニナリハセヌカト思ヒマス、前ニモ申述ベマシタ通り國債ハ二十四億六千六百六十八萬六千圓デ、我が國ノ所得ノ二倍ニナツテ居リマス、又年々多大ノ輸入超過トナルト云フ現況デアリマシテ、前途ノ財政經濟ハ如何ナル窮境ニ陥ルコトカ分リマセヌ、就キマシテハ政府ハ前途ノ財政ノ經畫ヲ確立セラル、マデハ、專ラ節約ヲ守ツテ行政財政ノ整理ヲ決行セラレムコトヲ切望イタシマスル、此段ヲ申述ベテ置キマス

〔子爵谷干城君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵徳川家達君) 谷子爵ハ……

○子爵谷干城君 大藏大臣ハ今ノ何ニ對シテ御演說デモアリハシマセヌカ、間違ッタコトデモゴザイマスレバ、ココデ一ツ御反駁ガアッタラ大變宜カリサウニ思ヒマス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 唯今ハ御希望ト云フコトデゴザイマシタカラ、御討論ノ際、差控ヘテ居リマシタノデアリマシタガ、谷子爵カラ更ニ御尋ネガゴザイマシタノデ一應考ヘテ申述ベマス、此將來節約ヲ努メルト云フコトハ勿論ノコトデゴザイマス、併ナガラ唯今西村君ノ御演說中ニ、四十年度ノ經

畫ノコトニ就テノ色々御話ガゴザイマシタガ、是ハ此前ニモ申述ベテ置キマシタ通り、今日ニ於テ未ダ未決ノ問題ガ多々アルニ依ッテ、之ヲ豫メ決定スルト云フコトハ其時期ニ達シテ居ラス、サリナガラ四十年年度ノ經畫ヲ立テマスルニ於キマシテハ、固ヨリ國力ノ許ス範圍内ニ於テ經畫ヲ立ツル考ヘデアリマスル、國力ノ許サヌ經畫ヲ立テテ見タ所ガ、ソレハ到底行ハレルモノデハ無イノデ、即チ此三十九年度ニ於テ費用ガ多クカ、ルト云フコトハ、政府ニ於テモ最モ心配イタス所デゴザイマスルガ、此費用ノ多クカ、ルト云フ其原因ハ何デアアルカト云フト、詰リ此戰爭ニ繼續イタス事柄ガ未ダ片付カヌデアリマス、即チ此軍隊引揚、其他到底戰爭ハ終リマシタガ、之ヲ一時ニ平時ニ復スルト云フコトハ、斯ノ如キ大戰争ノ後ニ於テハ到底出來得ベカラザルコトデアリマス、ソレ故ニ三十九年度ハ比較的多少ノ經費ヲ要スルト云フコトニ就テハ、是ハ十分ノ御了承ヲ願ハナケレバナリマセヌ次第デ、サリナガラ此御協贊ヲ經マシタ以上、其費用ノ中デ軍隊ノ引揚ナリ、其他ハ事情ノ許ス限リハ十分節約ヲ努メマスル考ヘデゴザイマス、斯ク致シマシテ既ニ増稅ノ經畫モ御協贊ヲ經テアリマスルシ、又減債基金ノコトモ御協贊ヲ經テアリマスカラ、此戰費ニ就テ要シタルモノノ處分案ト云フモノハ、茲ニ一段落ヲ告ゲマシタ次第デアリマス、デ之ニ依リマシテ參リマスルト、此四十年年度ニ於キマシテハ又滿洲ノ處分或ハ韓國ノ經營ニ就キマシテノ問題ガ生ジマセウケレドモ、軍費ノ方ノ處分ハ既ニ一段落ヲ告ゲテ居リマスルデアリマスカラ、其以上ノコトハ相當歲入ノ許ス限リ、又國力ノ許ス限リヲ以テ經畫ヲ立ッテ參リマシタナラバ、決シテ西村君ノ御心配ナサルヤウナコトハ無カウト政府ハ考ヘテ居リマスノデ、今日ニ於テ三十九年度ノ經費ヲ此以上減スト云フコトハ到底出來マセヌデアリマスカラ、是ハ此儘御協贊ヲ仰ギタクゴザイマス。ソレカラ前申シマシタ通り其範圍内ニ於テ事情ノ許ス限リ固ヨリ節約ヲ努メマシテ、而シテ其節約シ得タモノハ又四十年年度ニ於キマシテハ、ソレダケカモ伸ビマスコトニナリマスカラ、四十年年度ノ經畫ハ何レ十分熟議ノ上デ、必ズ國力ノ許ス範圍内ニ於テ經畫ヲ立ッテ、此次ノ議會ニ於テ御協贊ヲ仰ギマス考ヘデ居リマスノデ、其他國債ノ増加、或ハ輸出入ノ關係ニ就テ御演說モゴザイマシタケレドモ、是ハ各或ハ見ル所ヲ異ニスルカモ分リマセヌ、公債ノ増スト云フコトハ固ヨリ政府ニ於テモ深く注意ヲ致シテ居リマスコトデゴザイマスガ、ソレハ又ソレノ減債ノ途モ立テテアリマスルコトデ、又貿

易發展ノコトニ就キマシテモ、ソレノ經畫ニ怠ラヌ考ヘテ居リマスルノデ、到底斯ノ如キ大戰役ノ後、又斯ノ如クニ國運ノ發展ヲ來タスベキ時期ニ於テ、熟考ハ勿論イタサレナケレバナラヌコトデゴザイマスケレドモ、唯前途ヲ心配スルト云フダケデハ事ノ解決ハ付カナイ、相當ノ思慮、相當ノ見込ヲ立ッテ進ンデ行クト云フコトガ今日ニ於テ執ルベキ相當ナル途デアラウト考ヘテ居リマスノデ、決シテ無謀ニ國家ヲ誤ルヤウナ方針ト云フモノニ進ムト云フコトハ萬々ゴザイマセヌ、即チ今日經費ノ多イト云フコトハ、戰後ノ結果已ムヲ得ナイ、次ノ議會ニ於キマシテハ出來得ル限リ平時ノ狀態ニ復シ、國力ノ許ス範圍内ニ於テ經畫ヲ立ツル、斯ウ云フ考ヘデアリマス

○伊澤修二君 本員ハチヨット一ツ質問ヲ致シタイト思ヒマス、ソレハ文部省所管ノ臨時部第十一款ニ普通教育獎勵費ト云フモノガアリマスガ、是ハ教育基金ト何等カノ關係ヲ有ッテ出タモノデアリマスカ、或ハ單獨ニ出サレタモノデアアルカ、チヨット承リタイ

〔政府委員松村茂助君演壇ニ登ル〕

○政府委員(松村茂助君) 唯今伊澤君カラ御質問ニナリマシタ臨時部ノ教育獎勵費ト云フモノハ教育基金トハ何等ノ關係モアリマセヌ、併ナガラ斯ウ云フ點ニ於テ關係ガアルト見ルコトガ出來マス、ソレハ御承知ノ通り教育基金ト云フモノハ戰爭ノ爲ニ繰替使用サレテ現在ハ殆ド使ヒ切ッテ居リマシテ、其利子ト云フモノヲ生ジマセヌ、ソレデアリマスカラ從來府縣ニ配當シテ置キマシタ配當金ト云フモノハ支出スルコトガ出來マセヌ、併ナガラ一方ニ於テ小學教育ノ獎勵ト云フコトハ戰後殊ニ一日モ之ヲ緩ウスルコトガ出來マセヌカラシテ、特ニ二十五萬圓ヲ支出スルト云フコトニナッテ次第ゴザイマス

○伊澤修二君 御説明ハ了承イタシマシタガ、本員ハ此場合ニ於キマシテ少シク意見ヲ述ベ且ツ政府ニ注意ヲ促シタイト思ヒマスガ、御差支ハアリマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、明治三十九年度歲入歲出總豫算並明治三十九年度各特別會計歲入歲出豫算ト云フ全部ノ問題ニ供シテ宜カラウト思ヒマスガ、御異議ハアリマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イト認メマス、伊澤君ハ唯今ノ三十九年度ニ就テ……

○伊澤修二君 議事日程ノ第二ニ就テノコトデアリマス
○議長(公爵徳川家達君) 御意見ヲ御述ベニナリタイト云フ...

○伊澤修二君 ハイ
○議長(公爵徳川家達君) コチラヘ御出デテ願ヒマセウ

〔伊澤修二君演壇ニ登ル〕

○伊澤修二君 諸君、本員ハ唯今ノ質問ニ依リマシテ、教育獎勵費ト云フモノ
ノ如何ナル關係ヨリシテ政府ハ之ニ出サレタト云フコトハ一應承知ヲ致シ
マシタ、湖ッテ此教育基金ノコトヲ一應沿革ヨリ致シマシテ述ベマシテ、大
ニ政府ニ注意ヲ促シタイト考ヘマス、諸君モ能ク御承知デゴザイマセウガ、
此教育基金ト云フモノノ出来マシタノハ中ニ歴史ノアルコトデアリマシテ、
決シテ一朝一夕ニ偶然ニ出来タモノデアリマセヌ、曩ニ明治二十七八年ノ日
清ノ戰爭ノ正ニ終ッタトキニ當リマシテ、即チ此清國償金ノ處分ニ就キマシ
テハ種々ナル方案モアリマシタ、其償金ノ十分ノ一ヲ以テ教育ノ爲ニ用サ
レタイト云フコトハ殆ド全國ノ輿論デゴザイマシタ、即チ市町村ニ於ケル有
力ナル人々並ニ各種ノ團體ヨリシテ凡ソ千ヲ以テ數フル程ノ請願書ガ兩院ニ
出マシタ、其請願ノ趣意ト云フモノハ、元ト此日清ノ戰爭ニ於キマシテ連戰連
捷ノ效果ヲ奏シタト云フモノハ固ヨリ上 天皇陛下ノ御稜威並ニ海陸軍人ノ
善謀勇闘ニ依ルトハ雖モ、即チ此國民ニ忠君愛國ノ精神ガアレバコソ、能ク
戰ッテ遂ニ此效果ヲ奏シタノデアアル、依テ其十分ノ一クラ非ハ是非トモ此普
通教育ノ爲ニ用サレタイト云フコトノ趣意デアッタト記憶シテ居リマス、其
結果トシテ衆議院ニ於キマシテハ二十八年ノ冬ニ有力ナル議員諸氏ヨリシテ
建議ガ出マシタ、又本院ニ於キマシテモ故ノ近衛公爵初メト致シマシテ此院
ノ内ヨリ續イテ建議案ノ提出ニナリマシタコトハ能ク御記憶デアラウト存
ジマス、然ルニ其當時ニ於キマシテハ政府ノ容ル、所トナラナカッタノハ如
何ニモ遺憾ナク次第デアリマスガ、併シ其議論ト云フモノハ政府ガ容レナカ
タニ依ッテ消滅シタノデハナイ、益、其度ヲ高メテ到頭三十二年ニ至リマシテ
即チ初メテ此五箇年間ノ盡力ノ結果ガ顯レテ、遂ニ三十二年ノ三月ニ教育基
金特別法ト云フモノガ出来タノデアリマス、即チ此教育基金特別法ニ依リマ
スルト、一千萬圓ト云フモノヲ以テ基金ト致シテ、即チ其一千萬圓ノ利子五
十萬圓ト云フモノヲ年々普通教育ノ爲ニ出スト云フコトニナッテ居ッタノデア
リマス、然ルニ先刻政府委員ヨリモ申サレマシタ如ク、一昨年ノ春ニナリマ

シテ遂ニ此軍事費ノ爲ニ此基金ハ流用セラレマシタノデアリマス、是ハ誠ニ
已ムヲ得ヌ次第デ、諸君モ能ク御記憶ニナリマスル通り、其當時ノ有様ハ此
院ニ居ラル、方ニモ、サウ云フ方モアリマセウガ、随分有力ナル熱心、精神
家ニハ外國ノ皇室ナドヨリ賜ハッタ其金鎖或ハ金ヲ以テ拵ヘタ物ハ皆之ヲ軍
事費ノ爲ニ出シテ基金ニシタイト云フコトヲ申出シタヤウナ時デアリマス、
ソレ故ニ此教育基金ノ如キモノハ、無論是ハ已ムヲ得ヌトシテ教育社會ニ於
テハ一言ノ之ニ向ッテ異議ヲ言フ者ハ無カッタノデアリマス、ケレドモ此教育
基金ト云フモノハ、三十二年ニ時ノ文部大臣樺山伯爵ノ明言セラレタ如ク、
實ニ是ハ忠君愛國ノ記念碑、無形ノ記念碑ヲ建テタモノデアアル、其無形ノ記
念碑ト云フモノハ此日露ノ戰爭ニ於テ如何ナル影響ヲ爲シタルカト云ヘバ、
實ニ日露ノ戰爭ニ於テモ此國民ノ報國ノ精神ト云フモノハ御承知ノ通り現レ
テ來テ、即チ此度ノ大勝利ヲ得タ又一ツノ大記念トモナッタト申シテモ宜カ
ラウト思ヒマス、此大記念タル所ノモノヲ今日ニ於テハ、之ヲマルデ棄テテ
仕舞フト云フ場合ニナルト云フコトハ如何デゴザイマセウカ、是カラ將來若
シヤ外國ト又戰ヲ開クコトガ無イトモ限リマセヌ、其時ニ至ッテ此記念碑サ
ヘ無イヤウナ憐レナ國民ヲ教育スルト云フコトハ、如何ニモ遺憾至極ナコト
デハナイカト考ヘマス、ソレデ此度コソ此大戰爭ノ記念トシテ一千萬圓ガ二
千萬圓ニモ三千萬圓ニモシテ立派ニ是ハ填補復舊セラレナケレバナラスト本
員ハ考ヘマス、政府ニ於カレマシテモ先刻來段々申サレマスル如ク前途ノ財
政經畫ト云フコトニ付テハ頗ル御苦心ノ模様デゴザイマスルガ、併シ此教育
記念碑ト云フベキ所ノ教育基金ト云フモノハ、何卒來年度ニ於キマシテハ是
非トモ填補復舊セラレルコトニ致シタイト存ジマス、是ダケノ事ヲ申述ベマ
シテ政府ノ注意ヲ促シテ置キマスル次第デアリマス

○子爵曾我祐準君 唯今伊澤君ノ質問ニ付キマシテ文部大臣ノ御意見ヲ伺ヒ
タウゴザイマス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 文部大臣ハ唯今御出デガゴザイマセヌカラ、私ガ
チヨット伊澤君ノ御注意ニ對シテ申述ベテ置キマスガ、此教育基金ノ出来マシ
タノハ今伊澤君ノ御述ベニナリマシタ通りニ、清國カラ受取リマシタ償金殘
額ノ内五千萬圓ト云フモノヲ以テマシテ非常ノ準備ニ充テル、其非常ノ準備
ニ充ツルト云フ方針ニ於テハ其内三千萬圓ハ軍艦水雷艇補充基金トシ、一千

萬圓ハ災害基金トシ、一千萬圓ハ教育基金トスル當時ノ經畫デアリマシテ、教育基金モ其趣意ニ依ッテ出來マシタ、然ル所ガ其後ニ團匪事件ガゴザイマシテ、團匪事件ノ時ニ矢張り其趣意ニ從ヒマシテ此三基金ノ中カラ軍費ヲ支出イタシマシタ、然ルニ是ハ清國ヨリ其後賠償金ガゴザイマシタモノデスカラ填補イタシマシタノデゴザイマス、デ此度ノ日露ノ事件ニ付キマシテモ前ノ趣意ニ依リマシテ軍用ノ方ニ使用シテゴザイマス、之ヲ來年度ニ補填スルカセヌカト云フコトハ餘程ムツカシイ問題ト考ヘル、五千萬圓ノ填補ガ四十年度ニ於テ出來ルト云フコトハ今日ハ御約束ハ出來マセヌ、如何トナレバ、唯今西村君モ御述ベニナリマシタ通り多々他ニ必要ナル事業ガアリマスコトデゴザイマスカラ、此基金ノ填補ヲサウ急ニシナケレバナラヌト云フコトハ餘ホド是ハ困難ノコトデゴザイマス、是ハ御注意ノ通りニハ次年度ニ於テハ參リマセヌト考ヘマス

○伊澤修二君 本員ハチヨット大藏大臣ニ質問ヲ致シタシ、尙ホ一層進ンデ御意見ヲ承リタウゴザイマス、成ルホド此各種ノ基金ヲ一時ニ填補スルト云フコトハ難イト云フコトハ御尤ノコトト考ヘマス、併ナガラ此教育基金ノ如キモノハ本員ハ前ニ申シタ通り、沿革モアリ決シテ是ハ捨置クベキ筈ノモノデ無カラウト思フ、ノミナラズ、茲ニ教育獎勵費トシテ出シタ所ノモノハ全ク一時ノ臨時費デアル、故ニ來年度ニ於テ此臨時費ハ出ルカ出ヌカモ分ラヌ、斯ノ如キ薄弱ナルモノヲ以テ謂ハバ教育基金トスリ替ヘタト云フヤウナモノト本員ハ認メテ居ル、左様ナ大藏大臣ハ矢張り意見ヲ持ッテ財政ヲ料理スルヤ否ヤト云フコトヲ承リタイ

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 教育ニ重キヲ置クト云フコトハ固ヨリ一日モ怠リハ致シマセヌ、併ナガラ此基金ノ填補ト云フコトハ來年度ニ於テハ補填スルコトハ出來スト考ヘル、斯ウ云フ私ノ考ヲ御答イタシタノデアリマス

○議長(公爵徳川家達君) 他ニ御發言モゴザイマセヌカラ採決ヲ致シマス、全部豫算委員長報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第三ニ移リマス、豫算外國庫ノ負擔トナ

ルベキ契約ヲ爲スヲ要スル件、是モ全部ヲ問題ニ供シマス

○子爵谷干城君 チヨット伺ヒマスガ、總理大臣ハ御出デニナリマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 谷子爵ニ申上ゲマスガ、總理大臣ハ少シ勝レマセヌデ出席ガ出來ナイト云フコトデアリマス

○子爵谷干城君 ソレナラバ私ハ先日ノ豫算委員會ノ時ニ述ベマシタ意見ニ付テハ、總理大臣ハ何カ御辯解モアリザウニ承ツタデゴザイマスガ、ドナタカ御代リニナッテ御述ベニナリマスデゴザイマスガ、全ク私ノ申述ベタ所ヲ其儘デ御聽置キニナルト云フノデゴザイマセウカ、ソレガ私ハ伺ッテ置キタイ、

〔國務大臣寺内正毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(寺内正毅君) 唯今谷子爵ノ御尋デゴザイマスル過日ノ豫算總會ニ於テ子爵ノ演說ニ對シマシテハ、總理大臣ヨリ意見ヲ申述ベル筈デゴザイマス、既ニ昨日實ハ總豫算ノ席ニ出マシタノデゴザイマスガ、子爵ノ御出席ガ無カッタ爲ニ控ヘマシタ、今日ハ出マスレバ宜シウゴザイマスガ、少シ勝レマセヌデ、今日ハ出席ヲ致シマセヌ、遺憾ナガラ今日ハ能ウ出來マセヌ、他日相當ノ機會ヲ以テ子爵ノ御意見ニ對シテハ演說ヲ致シマスコトデゴザイマス、此段ヲ申述ベテ置キマス

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 全部豫算委員長報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第四ニ移リマス、臨時軍事費豫算追加案、是モ全部ヲ問題ニ供シマス、豫算委員長ノ報告通り御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五ニ移リマス、明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案第一號、是モ全部ヲ問題ニ供シマス、豫算委員長ノ報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六ニ移リマス、明治三十八年度歳入歳出總豫算追加案第二號、是モ全部ヲ問題ニ供シマス、御發言ガゴザイマセヌカラ採決ヲ致シマス、豫算委員長ノ報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第七ニ移リマス、明治三十八年度各特別會計歳入歳出豫算追加案、特第一號、全部ヲ問題ニ供シマス、豫算委員長ノ報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八ニ移リマス、豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件、追第一號、是モ全部ヲ問題ニ供シマス、委員長報告通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

○子爵曾我祐準君 今日ハ内務大臣ハ御出ニナツテ居リマスカ、伺ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 出テ居ラレマス

○子爵曾我祐準君 昨日豫算總會ノ終ニ於キマシテ本員ハ東北三縣饑饉ノ状態ニ付テ問ヲ發シマシタガ、不幸ニシテ内務大臣ガ出席ガ無イニ依ッテ答ガ出來ナイト云フコトデゴザイマシタガ、其時ドウカ内務大臣ニ此事ヲ傳ヘテ貰ヒタイト云フコトヲ附加ヘテ置キマシタ、ドウカ内務大臣ノ御答ヲ此際願ヒタクゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 曾我子爵ニ御注意ヲ致シマスガ、豫算案ハ全部議了イタシマシテ仕舞ヒマシタ、唯今ノ御質問ハ他ノ時機ニ御持出シニナツテハ如何デゴザイマス

○子爵曾我祐準君 本員ガ昨日ノ總豫算ノ時ニ於テ問ヒマシタ時分ニ、本年ノ豫算ニ付テハ浩瀚デアアルカラ一々ハ目ハ通サヌガ、東北三縣ノ饑饉ニ對シ

テ政府ハ何カ之ニ付テ救恤ノ途ヲ執ラレタカ否ヤ、豫算中ニハ見當ラヌニ依ッテ如何デアアルカト云フ問ヲ發シマシタ、ソレデ本員ハドコマデモ豫算ト關係シタ事件ト考ヘテ居リマス、是ガ無イニ依ッテドウナサルト云フコトヲ問ヒマシタ、若シモ本年ノ豫算ニ饑饉救恤金ガ載ッテ居レバ此問ハ發シマセヌガ、マルデ無イカラドウナサルカト云フ問デアリマス、豫算ニ聯關シタモノト本員ハ信ジマス、併ナガラ内務大臣ガ御答ガ今日出來ナイ他ノ時機ニ於テスルト云フコトデアレバ、ソレヲ強ヒテ追ッテ是非御答ヘ下サイトハ申シマセヌ

○議長(公爵徳川家達君) 豫算案ノ議事ハ終リマシタ、故ニ議長ハ此事ヲ申上ゲタノデス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第九ニ移リマス、内國官憲ノ管掌ニ屬スル事項ニ付統監ノ職權ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會

〔子爵曾我祐準君 唯今ノハ内務大臣ガ答ヘラル、カ答ヘラレヌカト云フコトヲ述ブ〕

○議長(公爵徳川家達君) 曾我子爵ニ發言ハ許シテゴザイマセヌ

〔子爵曾我祐準君 發言ヲ請ヒマスト述ブ〕

○議長(公爵徳川家達君) 議長ハ宣告ヲ致シマシタ

〔子爵曾我祐準君 御宣告ガアツテモ發言ヲ請ヒマスト述ブ〕

○議長(公爵徳川家達君) 發言ヲ御請ヒニナツテモ發言ヲ許シマセヌカラ仕方ガ無イ

〔子爵曾我祐準君 何故ニ發言ヲ御止メニナリマスカ、ソレハ御無理デハゴザイマセヌカ、別ニ今聞カウト云フノデハナイ、初メ議長ハ御許シナスツタデアアリマセヌカ、ソレヲ議長ハ御止メナサル、是ハ豫算ニ關係シタルコトデアアルガ、ソレモ今日唯今此所デア聞カウトハ申シマセヌ、内務大臣ガ何ト答ヘラル、カ答ヘラレヌカト云フコトダケヲ伺フノデアアルカラ、議長トシテ御許シガアリサウナモノデゴザイマス、ドウカ内務大臣ニ於テモ御答ヲ願ヒタイ、今日答ヘルカ又答ヘヌカト云フコトヲ聞キタイト云フノデ、ソレダケヲ御許シニナツテモ何モ不法デハ無イデアアリマセヌカ、左様ナ無理ナコト、御壓制ナコトヲナサラヌデモ議長ノ職務トシテ御問ヘハアルマイト思

ヒマス」ト述ブ」

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第九、本案ノ通牒文ハ省略イタシマス

「左ノ提出文及議案ハ朗讀ヲ經ザルモ參照ノタメ茲ニ載録ス以下之ニ倣フ」

右
内國官憲ノ管掌ニ屬スル事項ニ付統監ノ職權ニ關スル法律案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十九年二月二十八日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

内國官憲ノ管掌ニ屬スル事項ニ付統監ノ職權ニ關スル法律案

韓國ニ關スル事項ニシテ法律ノ規定ニ依リ内國官憲ノ管掌ニ屬スルモノハ勅令ヲ以テ之ヲ統監ノ職權ニ屬セシムルコトヲ得

「政府委員岡野敬次郎君演壇ニ登ル」

○政府委員(岡野敬次郎君) 本案ハ極メテ簡單ナル法律案デアリマス、從來法律ノ規定ニ依リマシテ、或ハ外務大臣或ハ農商務大臣ト云フモノノ職權ニ屬シテ居ル所ノ事項ガアリマシテ、其事項ニシテ韓國ニ關スルモノハ之ヲ統監ノ職權ニ移スト云フノガ即チ此案ノ趣意デアリマス、二二ノ例ヲ申上ゲマスレバ、例ヘバ居留民團法ニ於キマシテハ其居留民團ハ外務大臣ガ之ヲ監督スルト云フコトニナツテ居リマス、又清國及朝鮮國在留帝國臣民取締法ト云フモノニ於キマシテモ、在留禁止ノ命令ヲ受ケタル者ガ不服アルトキニハ外務大臣ニ其命令ノ取消ヲ申請スルコトヲ得ルト云フコトガ規定シテアルノデゴザイマス、其ノ他或ハ外國領海產組合法トカ或ハ戶籍ノ届出ニ關スル戶籍ノ法トカ云フモノノ中ニ、或ハ外務大臣或ハ農商務大臣ノ職權ニ屬シテ居ル所ノ事項ガアルノデアリマスガ、既ニ韓國ニ於テハ統監府ガ設ケラレ、韓國ニ關スル事項ニ付キマシテハ即チ諸般ノ政務ノ統一ヲ圖ルト云フノ目的ヲ以テ之ヲ統監ノ職權ニ屬セシムルト云フノ制度ヲ立テマシタノデアリマスカラ、其精神ニ基キマシテ唯今申上ゲタヤウナ法律ノ規定ニ在ル所ノ事項ヲ統監ノ職權ニ移スト云フコトニシタイト云フ精神デアリマシテ、即チ此法律ニ依リマシテ勅令ヲ以テ韓國ノ統監ニ屬セシムルコトニ規定シタイト云フノデアリマス、誠ニ韓國ニ於ケル政務統一ト云フ目的カラ考ヘマシテ最モ適切ナルモノト信

ズルノデアリマスルノデ、成ルベク速ニ御協贊アラムコトヲ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 曾我子爵ニチヨット議長ハ申上ゲマス、唯今内務大臣ガ本日ノ議事日程ガ終ツタ所デ發言ヲ致サレルト云フコトデアリマスカラ、左様御承知ヲ請ヒマス

「子爵曾我祐準君 然ルベキコトト考ヘマス」ト述ブ」

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十二移リマス、右議案ノ審査ヲ付託ス

ベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選定ハ議長ガ致シマシテ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼ブ者アリ」

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ議長ガ選定ヲ致シマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十一ニ移リマス、臺灣總督府鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル法律案、政府提出、第一讀會

臺灣總督府鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル法律案

右

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十九年三月一日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望

大藏大臣法學博士阪谷芳郎

内務大臣 原 敬

臺灣總督府鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル法律案

臺灣總督府鐵道部ノ職工人夫ノ給料、諸手當其ノ他支部局及派出工場ニ於テ仕拂ヲ爲ス經費ハ主任ノ官吏ニ委任シテ仕拂ヲ爲サシムル爲現金ノ前渡ヲ爲スコトヲ得

「國務大臣原敬君演壇ニ登ル」

○國務大臣(原敬君) 唯今ノ臺灣總督府鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル法律案ニ付テ一應説明イタシマス、是ハ格段組入ツタ理由ノアルノデハゴザイマセヌガ、臺灣ノ官設鐵道ガ段々延長イタシマスルニ付テ各所ニ於ケル派出所等ニ於テ鐵道ノ職工、人夫ノ給料其他手當等種々ナル仕拂ガアリマスル

ガ、是ハ其各地ニ國庫ノ派出所ヲ設ケテ仕拂ノ便宜ヲ圖ルト云フヤウナコトハ到底經費モ許シマセヌ、又徒ニ煩雜ヲ醸ス次第デアリマスカラ、是等ノ鐵道沿道ニ居リマスル主任官ヲシテ仕拂ヲ即時ニ致シマスル爲ニ現金前渡ノ方法ヲ設ケタイト云フニ過ギナイノデアリマスカラ、願ハクハ速ニ御協贊ヲ得タイ次第デアリマス

○伯爵柳原義光君 質問ヲ致シタイノデアリマス、前渡ヲスル現金ノ高ハ凡ソ幾ラ位デアリマスカ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 判然茲ニ申上ゲルコトハ出來兼ネマス、ケレドモ大凡二百何十萬圓ノ金ヲ十一箇所クラ非ノ所デ仕拂フコトニナリマス、故ニ現金前渡ノ法律ガゴザイマセヌケレバ非常ニ不便ヲ感ズル次第ゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 他ニ御發言ガゴザイマセヌケレバ議事日程第十二ニ移リマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選定モ議長ガ致シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 然ラバ議長ガ選定イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三ニ移リマス、貯蓄銀行法案、政府提出、第一讀會

貯蓄銀行法案

勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

明治三十九年三月一日

内閣總理大臣侯爵西園寺公望
大藏大臣 法學博士 阪谷芳郎

貯蓄銀行法

第一條 本法ニ於テ貯蓄銀行ト稱スルハ公衆ノ爲複利ノ方法ニ依リ貯金ヲ預ルコトヲ營業トスル者ヲ謂フ

第二條 貯蓄銀行ハ左ニ掲クル業務ヲ營ムコトヲ得

一 元本ノ拂込ニ對スル有期年金又ハ一時金給付ノ契約

二 貯金切手ノ發行

三 兩替及送金爲替

四 保護預リ

五 金錢ノ取立及出納保管

第三條 貯蓄銀行ハ左ノ方法ニ依ルノ外其ノ資金ヲ運用スルコトヲ得ス

一 公債證券、確實ナル會社債券又ハ株券ヲ質トスル六箇月以内ノ貸付

二 三箇月以内ニ支拂ハルヘキ證券ノ割引

四 法律ヲ以テ組織シタル公共團體ニ對スル貸付

五 耕地又ハ宅地ヲ第一抵當トスル一箇年以内ノ貸付

主務大臣ハ前項ノ資金運用ノ方法及金額ニ關シ制限ヲ設クルコトヲ得

第四條 貯蓄銀行ノ預金ハ大藏省預金部預金又ハ確實ナル銀行ノ當座預金ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

貯蓄銀行カ他ノ銀行ニ預金ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ貯蓄預金高及第二條

第一號ノ契約ニ因ル拂込金高ノ四分ノ一ヲ限度トシ且預ケ先銀行ノ拂込

資本及準備金ヲ合セタル總金額ノ四分ノ一ヲ超ユルコトヲ得ス

第五條 貯蓄銀行ハ本法ニ記載セサル業務ヲ營ムコトヲ得ス

第六條 貯蓄銀行ニ非サル者ハ第一條ノ營業及貯金切手ノ發行ヲ爲スコトヲ得ス

第七條 貯蓄銀行ニ非サル銀行ハ一口三十圓未滿ノ預金ニ對シ利息ヲ附スルコトヲ得ス

第八條 貯蓄銀行ハ資本金二十萬圓以上ノ株式會社タルコトヲ要ス

第九條 貯蓄銀行ハ金錢以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲サシムルコトヲ得ス

第十條 貯蓄銀行ハ其ノ商號ニ貯蓄銀行ノ文字ヲ附スヘシ

貯蓄銀行ニ非サル者ハ貯蓄銀行ト稱シ又ハ之ニ類似スル名稱ヲ用井ルコトヲ得ス

第十一條 貯蓄銀行ヲ設立セムトスル者ハ定款及主務大臣ノ必要ト認ムル

書類ヲ添附シテ主務大臣ニ申請シ設立ノ認可ヲ受クヘシ

第十二條 貯蓄銀行ノ定款ニハ商法第百二十條ニ掲ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 損益計算ニ關スル事項
- 二 準備金ニ關スル事項

定款ヲ變更セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ代理店ヲ設置セムトスルトキ亦同シ

第十三條 貯蓄銀行ノ發起人ハ第十一條ノ認可ヲ受ケタル後ニ非サレハ株式ノ引受又ハ株主ノ募集ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 貯蓄銀行營業ヲ開始シタルトキハ速ニ主務大臣ニ届出ツヘシ貯蓄銀行設立認可書到達ノ日ヨリ一箇年以内ニ營業ヲ開始セサルトキハ設立ノ認可ハ其ノ效力ヲ失フ

第十五條 貯蓄銀行ハ毎日少クトモ午前九時ヨリ午後三時迄營業ヲ爲スヘシ

貯蓄銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ前項ノ營業時間ヲ變更スルコトヲ得但シ其ノ營業時間ハ六時間ヲ下ルコトヲ得ス

貯蓄銀行ハ大祭日、祝日、日曜日及其ノ營業地ニ於ケル一般ノ休日ノ外休業スルコトヲ得ス

第十六條 貯蓄銀行ハ二箇月毎ニ實際報告表ヲ製シ翌月十日迄ニ主務大臣ニ提出スヘシ

第十七條 貯蓄銀行ノ營業年度ハ一月ヨリ六月迄及七月ヨリ十二月迄トス

第十八條 貯蓄銀行ハ定時株主總會ニ於テ商法第百九十二條ノ承認ヲ爲シタル日ヨリ一箇月以内ニ左ノ書類ヲ主務大臣ニ提出スヘシ但シ書類ニ記載スヘキ事項及様式ハ主務大臣之ヲ定ム

一 貸借對照表

二 營業報告書

三 損益計算書

四 準備金及利益金ノ配當ニ關スル書類

貸借對照表ハ前項ノ期間内ニ之ヲ公告スヘシ
主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ第一項ノ外貯蓄銀行ヲシテ其ノ業務ニ關スル報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十九條 貯蓄銀行ハ一枚ノ金額ハ十錢以下タルコトヲ要ス

貯蓄銀行ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條 貯蓄銀行ハ一定ノ割合ニ依リ利子ヲ支拂フノ外名義ノ何タルヲ問ハス金錢其ノ他ノ財物ヲ貯蓄預金者ニ配與スルコトヲ得ス但シ定款ニ定ムル條件ニ從ヒ平等ノ割合ヲ以テ金錢ヲ配與スルハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條 貯蓄銀行ハ商法第百九十四條ニ依ル準備金ノ外貯蓄預金高及第二條第一號ノ契約ニ因ル拂込金高ノ四分ノ一ニ達スル迄毎營業年度利益金ノ十分ノ一以上ヲ特別準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ特別準備金ハ現金又ハ有價證券ヲ以テ之ヲ供託スヘシ但シ特別準備金額カ前項ノ制限ヲ超過スル場合ニ於テハ貯蓄銀行ハ主務大臣ノ認可ヲ受ケ其ノ超過額ヲ限度トシ之カ還付ヲ請求スルコトヲ得

第二十二條 貯蓄銀行カ商法第百二十一條ノ事由ニ因リテ解散シ、支拂停止ヲ爲シ又ハ破産ノ宣告ヲ受ケタルトキハ取締役又ハ清算人ヨリ直ニ之ヲ主務大臣ニ届出ツヘシ

第二十三條 貯蓄銀行ハ貯蓄銀行ニ非サル會社ト合併スルコトヲ得ス貯蓄銀行合併セムトスルトキハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請書ニハ會社各自ノ總取締役及總監查役之ニ連署シ左ノ書類ヲ添付スヘシ

一 總會決議錄謄本

二 合併ニ關スル契約書謄本

三 合併スヘキ會社各自ノ貸借對照表

四 合併ニ因リ存續シ又ハ設立スル會社ノ定款

第二十四條 主務大臣ハ必要ト認ムルトキハ何時ニテモ貯蓄銀行ノ業務及財産ノ狀況ヲ検査スルコトヲ得

第二十五條 主務大臣ハ貯蓄銀行ノ業務又ハ財産ノ狀況ニ依リ債權者ノ權利ヲ保護スル爲必要ト認ムルトキハ其ノ事業ノ停止ヲ命シ又ハ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第二十六條 貯蓄銀行カ法令若ハ定款ノ規定ニ違反シ又ハ公益ヲ害スヘキ行爲ヲ爲シタルトキハ主務大臣ハ事業ノ停止若ハ取締役、監查役ノ改選ヲ命シ又ハ設立ノ認可ヲ取消スコトヲ得

第二十七條 貯蓄銀行ハ商法ニ定メタル會社解散ノ事由ニ因ルノ外設立認可ノ失效及取消ニ因リテ解散ス

前項ノ場合ニ於テ登記所ハ主務大臣ノ囑託ニ因リテ解散ノ登記ヲ爲スヘシ

第二十八條 貯蓄銀行解散ノ場合ニ於テ清算結了シタルトキハ清算人ヨリ決算報告書ヲ添ヘテ主務大臣ニ届出ツヘシ

第二十九條 貯蓄銀行ノ清算人又ハ破産管財人ハ貯蓄預金者、勅令ノ定ムル所ニ依ル貯金切手所持者又ハ第二條第一號ノ契約ニ因ル債權者カ民法第七十九條又ハ商法第九百八十條第一項第五號ノ催告期間以内ニ申出ヲ爲ササルモ債權額ノ知レタル場合ニ於テハ之ヲ清算又ハ破産財團ノ配當ヨリ除斥スルコトヲ得ス

第三十條 貯蓄預金者及第二條第一號ノ契約ニ因ル債權者ハ第二十一條ノ特別準備金ニ付其ノ法定制限額ヲ限度トシ優先權ヲ有ス

第三十一條 左ノ場合ニ於テハ營業者、發起人、清算人又ハ會社ノ代表者ヲ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處ス

一 第三條乃至第七條、第十條、第十三條乃至第十五條、第十九條乃至第二十二條又ハ第二十八條ニ違反シタルトキ

二 第三條第二項ノ制限ニ違反シタルトキ

三 認可ヲ受ケスシテ認可ヲ受クヘキ事項ヲ行ヒタルトキ

四 第十六條及第十八條ノ書類又ハ公告中ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

五 第十六條及第十八條ニ依ル書類ヲ提出セス又ハ公告ヲ爲ササルトキ

六 第二十四條ニ依ル検査ヲ避ケ又ハ之ヲ拒ミタルトキ

七 第二十五條及第二十六條ニ依リ主務大臣ノ爲シタル命令ニ違反シタルトキ

第二十一條ノ規定ニ違反シタル場合ニ於テハ前項ノ過料ハ監査役ニモ之ヲ適用ス

附 則

第三十二條 本法施行ノ期日及施行ニ關シ必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

貯蓄銀行條例ハ之ヲ廢止ス

第三十三條 第八條ノ規定ハ既設貯蓄銀行及既設貯蓄銀行ノ合併ニ依ル新設貯蓄銀行ニハ之ヲ適用セス

第三十四條 既設貯蓄銀行及既設貯蓄銀行ノ合併ニ依ル新設貯蓄銀行ニシテ資本金二十萬圓未滿ノモノ其ノ資本金ヲ増加セムトスルトキハ商法第

二百十條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十五條 本法施行ノ際既設貯蓄銀行ノ既ニ爲シタル取引ニ關シテハ第三條及第四條ノ規定ヲ適用セス

第三十六條 既設貯蓄銀行ニシテ貯蓄銀行ノ業ヲ營ミタルモノ本法ノ施行ノ際其ノ業ヲ廢止スルトキハ現在ノ貯蓄預金ニ關シテハ仍貯蓄銀行條例ヲ適用ス

第三十七條 既設貯蓄銀行ハ本法施行ノ日ヨリ六箇月以内ニ本法ニ依リ其ノ定款ヲ變更シテ主務大臣ニ認可ノ申請ヲ爲スヘシ

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 此現行ノ貯蓄銀行法ハ其條文モ至ッテ簡單デアリマシテ、施行後段々考ヘマス所ガ餘ホド貯蓄ノ獎勵上、修正ヲ要スル所アリ

ト認メマシタノデゴザイマス、デ此貯蓄銀行法改正ノコトハ隨分久シイ問題デアリマシテ、政府ニ於キマシテモ度々案ニ就キマシテ熟考ヲ致シマシタコトガゴザイマスガ、此度戰役後益々此貯蓄ノ獎勵ト云フコトノ必要ヲ感ズル

ニ至リマシタノニ付キマシテハ、一日モ速ニ此貯蓄銀行ノ組織ヲ完全ナラシムルト云フコトヲ希望イタシマスルガ故ニ、此議會ニ於テ此法案ノ御協贊ヲ

仰ギタイト存ジマス、大體申上ゲマスト從來ノ貯蓄銀行法ノ組立ハ重役ガ二箇年間ノ連帶責任ヲ負ヒ、又準備ノ積立ヲシテ居ル、預金ニ對シテ準備ノ積

立ヲスルト云フ箇條ガ主トナッテ居リマシテ、其外此政府ガ監督イタシマスル分ガ缺ケテ居リマシタノデゴザイマス、此度ハ其重役ノ連帶責任ト云フヤ

ウナコトニ付キマシテハ是ハ廢メル積リデ、之アルガ爲ニ却ッテ適當ナル重役ヲ得ヌト云フヤウナ慮モアリマスカラ、是モ廢メ、ソレカラ又積立金ノ方

法モ是ハ廢メマシテ、其代リニ此運用ノ方法等ニ付テ制限ヲ加ヘ又政府ノ監督ノ方法ニ付テノ方法ヲモウ少シ完全ナラシメ、サウシテ特別準備金ト云フ

モノノ積立ヲ新ニ開ク、斯ウ云フヤウナ大體方法ニ仕組ヲ變ヘマシタ、言葉ヲ換ヘテ申セバ、今マデガ政府ガ貯蓄銀行ヲ監督スルト云フコトニ重キヲ置

イテ無カッタノヲ、此度政府ガ貯蓄銀行設立ノ認可ナリ又其認可モ必要ノ場

合ニハ取消スト云フコトモ出來ルヤウニ致シテ、十分此貯蓄銀行ノ業務ニ對シテ監督シテ行ク、斯ウ云フ風ニ趣意ヲ改メマシタノデアリマス、是ハ隨分

其條文モ澤山ゴザイマシテ、一々此條文ニ就テ申上ゲマスルコトハ此際却テ煩雜デアラウカト考ヘマスガ、大體ニ於キマシテハ右ノ精神ニ依リマシテ本案ハ作ラレテアルノデゴザイマス、何レ詳細ノコトハ尙ホ委員會ニ於キマシテモ申述べマスル考テゴザイマスガ、速ニ御協贊ヲ與ヘラル、コトヲ希望シテ置キマス

○奥山政敬君 質問ガアリマス、此三十一條ニ過料ノコトガ載ツテ居リマスガ、是ハ何レ過料ノ處分ハ裁判所ノ處分デアラウト思ヒマスガ、裁判所構成法ニ依リマスト此過料ノ權限ノコトハアリマセズ、裁判所權限ノ中ニ見當リマセヌガ、唯構成法第十七條ニ於キマシテ之ニ掲ゲタルモノノ外ハ訴訟法及特別法ノ定ムル所ニ依ルト云フコトガアリマスガ、サウシマスト特別法ニ於キマシテ總則ミタヤウナモノガアツテ、何レノ裁判所デ管轄スルト云フコトガアリマシタカ、其邊ノ所ハ私ドモハ記憶ガゴザイマセヌガ、是マデノ法案ヲ見マスト大抵斯ウ云フヤウナモノハドコ裁判所、區裁判所ノ管轄トカ云フコトガ書イテアルヤウニモ心得マスガ、此案ニハ其コトガ載ツテ居リマセヌカラ他ニ適用スル總則ガ無ケレバ此案ハ何レデ管轄スルカト云フコトガ分リ兼ネルヤウデアリマスガ、本員ノ思ヒマス所デハドウモ他ニ無イヤウニ考ヘマス、或ハ私ノ取調ノ足ラヌ所カラ有ルノヲ記憶ガ無イノカ分リマセヌガ、其邊ハドウデゴザイマスカ、一應政府委員ノ御答辯ヲ煩ハスノデゴザイマス

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕
○政府委員(若槻禮次郎君) 唯今ノ御尋ネハ他ノ法律ガ出テ居リマシテ、非訟事件手續法ニ依ルト云フコトニナツテ居リマス、非訟事件手續法ニ依リマシテ各其裁判所ガ管轄スル、斯ウ云ウコトニナリマス
○奥山政敬君 マ一應御尋ネ致シマスガ、其非訟事件ハ何レノ法律デモ此過料ハ裁判所ガ管轄スルト云フコトノ明記ガアルノデセウカ、一應其明文ヲ御讀上ゲテ願ヒタイ

〔政府委員若槻禮次郎君演壇ニ登ル〕
○政府委員(若槻禮次郎君) チヨット錯綜シタ關係ニナツテ居リマスカラ、其所ノ明文ヲ明ニシテ一々管轄裁判所ノコトハ委員會デ能ク申上ゲタイト思ヒマス、左様御承知ヲ願ヒマス
○議長(公爵徳川家達君) 他ニ御發言ガゴザイマセヌカラ次ノ日程ニ移リマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十四、右議案ノ審査ヲ付託スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選定ハ議長ガ致シマシテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕
○議長(公爵徳川家達君) 御異存ガ無イト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十五ニ移リマス、明治三十八年勅令第九十四號承諾ヲ求ムル件、政府提出、衆議院送付、會議
明治三十八年勅令第九十四號
右本院ニ於テ承諾スヘキモノト議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

明治三十九年三月一日
衆議院議長杉田定一

貴族院議長公爵徳川家達

明治三十八年勅令第九十四號
右帝國憲法第八條第二項及第七十條第二項ニ依リ承諾ヲ求ムル爲
勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス
明治三十九年一月二十三日

- 内閣總理大臣 侯爵西園寺公望
- 兼文部大臣 寺内正毅
- 陸軍大臣 松岡康毅
- 農商務大臣 加藤高明
- 外務大臣 齋藤實
- 海軍大臣 大藏大臣 齋藤實
- 大藏大臣 博士 阪谷芳郎
- 遞信大臣 山縣伊三郎
- 司法大臣 松田正久
- 内務大臣 原敬

朕茲ニ緊急ノ必要アリト認メ樞密顧問ノ諮詢ヲ經テ帝國憲法第八條及第七十條ニ依リ公債募集ニ關スル件ヲ裁可シ之ヲ公布セシム

御名 御璽
明治三十八年七月八日

内閣總理大臣 伯爵桂 太郎
 兼外務大臣 伯爵山本權兵衛
 海軍大臣 伯爵清浦奎吾
 内務大臣 伯爵芳川顯正
 農商務大臣 伯爵清浦奎吾
 大藏大臣 伯爵曾禰荒助
 陸軍大臣 寺内正毅
 司法大臣 波多野敬直
 逓信大臣 大浦兼武
 文部大臣 久保田 讓

勅令第九十四號

政府ハ臨時事件費支辨ノ爲公債三億圓ヲ募集スルコトヲ得
 前項公債ニ關シテハ明治三十八年法律第十二號第五條及第六條ノ規定ヲ適
 用ス

〔國務大臣阪谷芳郎君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(阪谷芳郎君) 此緊急勅令ハ御承知ノ通り公債三億圓ヲ發行イ
 シマシタノデゴザイマス、其事情ヲ申上ゲマスルト、三十八年ノ三月、奉天
 ノ戰役後、段々戰局ガ發展シテ參リマシテ、追々北ノ方ニ向ッテ進ムト云フ
 準備ヲシナケレバナラヌト云フ際デゴザイマス、其當時既ニ平和ノ話ガ一方
 ニ始マツタノデゴザイマスケレドモガ、果シテ其談判ノ結果、平和トナルヤ
 否ヤト云フコトハ、是ハマダ誰モ決定スルコトノ出來ヌ場合デアリマシタ、
 ソレデ一方ニハ段々北ノ方ニ向ッテ進ンデ行カナケレバナラヌ、一方ノ平和
 ノ結果ハマダ未定デアアル際デアアルニ依ッテ、此際ドウシテモ軍資金ト云フモノ
 ノ經畫ヲシナケレバナラヌト云フ場合ニナリマシタ、御承知ノ如クニ戰爭ノ
 始メニ於キマシテハ成ルベク軍用品ハ内地デ調辨ヲ圖リマシタノデゴザイマ
 スケレドモ、次第ニ戰爭ガ長ビクニ從ヒマシテハ、色々ノ材料ニ於キマシテモ
 外國ニ仰ガネバナラヌモノガ殖エテ參ルト云フヤウナ場合デゴザイマシテ、
 ドウシテモ其所ニ相當ナル外債ヲ募集シテ置クト云フコトノ必要ヲ感ジマシ
 タノデゴザイマス、依ッテ三十八年ノ六月ノ半バ頃カラ海外ニ在リマスル財務
 委員ニ其事ヲ申シテ遣ハシマシテ外國ノ資本家ト協議ヲ致サセマシタ、最初
 餘ホドハ話ガムツカシカッタノデゴザイマシタ、ソレハ三月ニ發行イタシマ
 シタ三億ノ外債ト云フモノガ未ダ拂込ニナッテ居ラヌ、然ルニ七月ニ又重ネテ

之ヲ發行スルト云フコトハ餘ホド此外國ノ市場ニ於テモ募債ノコトヲ難ンズ
 ルト云フヤウナ事情デアリマシタノデゴザイマスガ、段々財務委員ニ於テ事
 情ヲ説明イタシ、此公債ヲ募ルト云フコトハ決シテ政府ガ戰ヲ繼續スルト云
 フ意見デハナイ、詰リ平和ノコトガ未定デアアル未定デアアル以上ハ相當ナル準
 備ヲシナケレバナラヌ、若シ戰ガ早ク終レバ此公債ト云フモノハ以テ他ノ
 既ニ募ツタ公債ノ整理ニモ充テルコトガ出來ルダラウト云フヤウナ事情ヲ
 段々説明イタシマシテ、此募債ノ必要ト云フコトヲ外國ノ資本家ガ認メ、又
 海外ノ市場モ此募債ニ適當ナル事情ニ相成リマシタニ就キマシテ、即チ三十
 七年ノ七月初旬ニ於キマシテ、此募債ノコトヲ決定イタシマシタノデゴザイ
 マス、サウ云フ事情デゴザイマスル故ニ是ハ豫メ議會ノ御協贊ヲ仰グノ暇ガ
 無カッタノデゴザイマス、而シテ此募債ノ成功イタシマシタガ爲ニ總テノ點
 ニ於テ財政ハ勿論、其他總テノ點ニ於テ非常ナル利益ヲ得マシタ次第デゴザ
 イマスル、依ッテ政府ハ此勅令ニ對シテ御承諾ヲ與ヘラレムコトヲ切ニ希望
 イタシテ置キマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十六ニ移リマス、右議案ノ審査ヲ付託
 スベキ特別委員ノ選舉、此特別委員ノ選定ハ議長ガ致シマシテ御異存ハゴザ
 イマセヌカ

〔異議ナシト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ガ無イト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十七ニ移リマス、作業會計法中改正法
 律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、特別委員長報告

作業會計法中改正法律案

右可決スヘキモノナリト議決ス依テ及報告候也

明治三十九年二月二十八日

右特別委員長

原 保 太 郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔原保太郎君演壇ニ登ル〕

○原保太郎君 作業會計法改正ニ付キマシテ委員ノ決議ヲ報告イタシマス、

是ハ去月二十七日ニ委員會ヲ開キマシテ、當局者ノ出席ヲ請ヒマシテ、其説明ニ依リマスルト、此事實ハ筑前ノ國新原ト云フ炭礦ノコトデゴザイマス、是ハ從來海軍省ノ豫備炭礦トシテ使用シテ居リマシタガ、ドウモ軍艦用トシテハ餘リ面白クゴザイマセヌノデ、ソレヲ吳製鋼所ニ使用シマスルト、極適當ナ炭質デゴザイマスルカラ此度一般會計法ヨリ特別會計法ニ移シテ、而シテ其自營ノ目的ヲ以テ經營イタシマスルト、甚ダ便利デアルト云フコトデゴザイマス、段々委員ヨリ質問モゴザイマシタガ、詰リ委員デハ全會一致ヲ以テ可決スベキモノト認メマシタノデゴザイマス、ドウゾ速ニ可決セラレムコトヲ希望イタシマス、尙ホ右申シマスルヤウナ單純ナ案デゴザイマスカラ讀會省略ヲ以テ可決サレムコトヲ同時ニ希望イタシマス

○千坂高雅君 讀會省略ニ贊成

○南郷茂光君 贊成

○森山茂君 贊成

○男爵船越衛君 贊成

○子爵高野宗順君 贊成

○男爵西五辻文仲君 贊成

○伯爵柳原義光君 贊成

○辰巳楯太郎君 贊成

○子爵板倉勝達君 贊成

○伯爵大原重朝君 贊成

○田邊輝實君 贊成

○議長(公爵徳川家達君) 唯今ノ原君ノ讀會省略ノ動議ニハ定規ノ贊成ガアツタト認メマス、讀會省略ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス、原案ニ贊成ノ諸君ノ起立ヲ願ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十八ニ移リマス、輸出羽二重精練業法案、政府提出、第一讀會ノ續、特別委員長報告

輸出羽二重精練業法案

右別冊ノ通り修正セリ依テ及報告候也

明治三十九年三月三日

右特別委員長

伯爵廣澤金次郎

貴族院議長公爵徳川家達殿

輸出羽二重精練業法

〔小字ハ修正正文ハ削除ノ符號〕

第一條 輸出羽二重ノ精練ハ業ヲ營マムトスル者ハ命令ノ定ムル所ニ依リ精練ノ方法、工場ノ設備其ノ他精練ニ關シ必要ナル事項ヲ具シ地方長官ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第二條 主務大臣ハ一定ノ地區内ニ於ケル精練所ノ數ヲ限定スルコトヲ得

第三條 主務大臣ハ精練質、精練ノ方法、工場ノ設備其ノ他精練ニ關シ必要ナル命令ヲ發シ及處分ヲ爲スコトヲ得

第四條 主務大臣及地方長官ハ官吏ヲシテ精練所ニ臨檢セシメ帳簿、工場、倉庫其ノ他物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條 精練業者廢業ヲ爲サムトスルトキハ六箇月前ニ主務大臣ニ願出テ其ノ許可ヲ受クヘシ

第六條 相續ニ因リ精練業ヲ承繼シ又ハ廢止シタルトキハ其ノ旨ヲ主務大臣ニ届出ツヘシ

第七條 精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ニシテ第八條第二項ニ該當スル場合ニ於テ其ノ工場、倉庫、器具若ハ機械ヲ讓渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲サムトスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 主務大臣及地方長官ハ官吏ヲシテ精練所ニ臨檢セシメ帳簿、工場、倉庫其ノ他物件ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第七條 精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ニシテ第八條第二項ニ該當スル場合ニ於テ其ノ工場、倉庫、器具若ハ機械ヲ讓渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲サムトスルトキハ主務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第八條 精練業者正當ノ事由ナクシテ精練ノ委託ヲ拒ミ又ハ精練ヲ爲サス

若ハ休業ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ之カ爲精練スルコトヲ得サル輸出

羽二重ノ精練ヲ他人ヲシテ爲サシムルコトヲ得

免許ヲ取消サレタル爲精練スルコトヲ得サル輸出羽二重ノ精練ニ付亦前

項ニ同シ但シ其ノ期間ハ六箇月ヲ超ユルコトヲ得ス

前二項ノ場合ニ於テハ地方長官ハ他人ヲシテ其ノ精練業者又ハ精練業ノ

免許ヲ取消サレタル者ノ工場、倉庫及器具機械ヲ無償ニテ使用セシムル

コトヲ得

第一項及第二項ニ依リ他人ヲシテ精練ヲ爲サシメタル爲特ニ要スル費用

ハ精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ノ負擔トス

第九條 主務大臣^{。及地方長官}ハ精練業者ノ行爲ヲ法令ニ違反シ又ハ公益ヲ害スト認

ムルトキハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十條 免許^{。可}ヲ受ケスシテ輸出羽二重ノ精練ヲ爲シタル者ハ^{。五十}百圓以上千

圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ犯罪ニ係ル器具及機械ハ之ヲ沒收ス

第十一條 第六條第二項ノ許可ヲ受ケスシテ精練業ヲ承繼シ又ハ第七條ノ

許可ヲ受ケスシテ工場、倉庫、器具若ハ機械ヲ讓渡シ又ハ擔保ノ目的ト爲

シタル者ハ百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條 精練業者正當ノ事由ナクシテ精練ノ委託ヲ拒ミ又ハ精練ヲ爲サ

ス若ハ休業ヲ爲シタルトキハ三十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者第八條第三項ニ依ル工場、

倉庫又ハ器具機械ノ使用ヲ拒ミタルトキハ罰前項ニ同シ

第十三條 精練業者第三條ノ命令ニ違反シタルトキハ^{。三十}二百圓以下ノ罰金ニ

處ス

第十四條 當該官吏ノ尋問ニ對シ虛偽ノ答辯ヲ爲シ又ハ當該官吏ノ職務執

行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ^{。三十}百圓以下ノ罰金ニ處

ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十五條 相續ニ因リ精練業ヲ承繼シタル者第六條第一項ノ届出ヲ怠リ

タルトキハ^{。四十}二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑

法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十七條 精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者ハ其ノ代理人、戶

主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處

罰ヲ免ルルコトヲ得ス

タルトキハ^{。四十}二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條 精練業者又ハ精練業ノ免許ヲ取消サレタル者カ未成年者又ハ禁

治産者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ精練業

者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年

者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十九條 明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基キテ發

スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 本法及本法ニ基キテ發スル命令ノ規定ハ^{。輸出及輸出}紋紐、薄絹其ノ他主

務大臣ノ指定シタル輸出絹織物ニ之ヲ準用ス

第二十一條 本法及本法ニ基キテ發スル命令ニ於テ精練業者ニ關シ規定シ

タル事項ハ罰則ニ關スル規定ヲ除キ精練事業ヲ行フ府縣其ノ他ノ公共團

體ニ之ヲ準用ス

附 則

第二十二條 本法ハ地區ヲ限リテ之ヲ施行スルコトヲ得

本法施行ノ期日及地區ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十三條 本法發布ノ日ニ於テ精練業ヲ營ム者ニシテ本法施行ノ日ニ至

ル迄仍其ノ業務ヲ繼續スル者ハ本法施行ノ際同一地區内ニ於テ免許ヲ受

ケタル精練業者ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ補償ヲ請求スルコトヲ得

免許ヲ受ケサル精練業者同一地區内ニ二人以上アルトキハ前項ノ補償金

額ハ之ヲ分擔スヘシ

補償金額及其ノ分擔ノ割合ハ當事者ノ協議ヲ以テ之ヲ定ムヘシ協議調ハ

サルトキハ主務大臣鑑定人ノ意見ヲ徵シ之ヲ決定ス此ノ決定ニ對シテハ

不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十五條 本法發布以前ヨリ精練業ヲ營ム者ニシテ仍其ノ業務ヲ繼續セムトスル者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ本法ニ依リ許可ヲ受クヘシ
第十六條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

〔伯爵廣澤金次郎君演壇ニ登ル〕

〔男爵伊達宗敦君〕議長、私ハチヨット委員長ニ願ッテ置キタイコトガアリマス、委員長ニチヨット御注意イタシテ置キタイコトガアリマス〔ト述ブ〕

○議長(公爵徳川家達君) 伊達男爵

○男爵伊達宗敦君 此案ハ随分委員會デ眞赤ニ棒ヲ御引キニナッテ、殆ド原案ノ字ハ無イヤウニナッテ居リマス、此事ニ付キマシテハ、ドウゾ條々ニ涉ッテ精シク御説明ヲ願ヒマス

○伯爵廣澤金次郎君 承知シマシタ、唯今議題ニ登リマシタ輸出羽二重精練業法案委員會ノ經過及結果ヲ御報告ニ及ビマス、本案ハ御承知ノ如ク過日第一讀會ノ場合ニ於キマシテモ質問モ續々アリマシテ、折角世間ニモ随分議論ノアリマス問題デアリマスニ依ッテ、委員會モ都合四回開キマシテ、十分慎重ニ審査シテ積リデアリマス、尙ホ委員會ニ於キマシテ大體ニ涉リ又逐條ノ質問モアリマシテ、随分長イ質問ニ對シテ政府ノ説明モアリマシタガ、是等ハ速記録ニ依ッテ既ニ御覽ノコトト思ヒマスカラ、是等ノコトニ涉リマシテハ御報告ハ省ク積リデアリマス、本案ノ：：本案ト申シマスルハ政府ノ原案デアリマスガ、政府ガ此原案ヲ提出シマシタル理由及方針ノ説明ヲ承リマスルト、政府ハ初ノ考ハ此羽二重精練業法ト云フモノヲ免許制度ニシテ或ル地ニ限ッテ一ツノ：：一種ノ特權的ノモノニシヤウト云フノガ政府ノ考デアッタト考ヘラレマス、併ナガラ委員會ニ於キマシテハ委員ノ多數：：多數デハアリマセヌ、殆ド委員ノ全會一致ヲ以チマシテ、政府ノ提出ノ免許制度即チ特權制度ノ如キモノニスルコトハ委員會ニ於テハ之ヲ否認シタ次第デアリマス、併ナガラ今日ノ輸出羽二重ノ販路ノ商況等ヲ政府委員ノ説明ヲ聽イタ結果、輸出羽二重ハ年々其額ハ増シテ參リマスルケレドモ、今日ニ於テハ佛蘭西、伊太利、亞米利加等ノ如キニ於テハ此輸出羽二重ノ類似ノ品ヲ段々製造スルヤウニナリマスルシ、且又關稅デ以テ成ルベク日本ノ輸出羽二重ヲ防グヤウナ方針ヲ執ッテ居リマス、又内地ニ於キマシテハ今日ニ於テモ尙ホ羽二重ノ精練ノ結果、随分將來マダ改良スベキモノガアルト云フコトデアリマス

カラ、特許制度ニスル程ノ必要モ無イガ、併ナガラ、或ル取締ノ方法ヲ設ケルノハ、今日ノ輸出重要品ノ羽二重ヲ獎勵スルニ於テハ必要デアラウト云フコトガ委員會ノ決議デアリマシテ、其結果御手許ニ回ッテ居リマスル如キ根本的ノ大修正ヲ加ヘタ次第デアリマス、是ヨリ委員會ノ修正ヲ致シマシタ箇條ニ付キマシテ伊達サンノ御注文ノ如ク成ルベク精シク御報告イタス積リデアリマス、委員會ニ於キマシテハ前申シマシタ如ク政府ノ方針、本案提出ノ方針ヲマルデ變更イタシマシテ、政府ノ免許制度ト云フモノヲ許可制度ニ變更イタシマシタ結果、即チ第一條カラシテ大修正ヲ加ヘタ次第デアリマス、此第一條ノ修正ハ即チ今マデノ政府提出ノ、之ヲ免許制度ニシテ一種ノ獨占事業ニスルコトハイカヌカラ、矢張り是ハ普通ノ許可制度ニシテ置イテ、サウシテ矢張り自由競争ニ任セルガ必要デアラウト云フコトデ此第一條ヲ斯ノ如ク修正シタ次第デアリマス、此原案ノ第一條ノ第二項ニ府縣其他ノ公共團體ニ此精練業ヲ營マシムルト云フ條ガアリマシタガ、是ハ公共團體ナルモノガ營業ヲスルト云フコトハ原則カラシテ認メテ無イ次第デアリマスカラ、此際斯ウ云フ明文ヲ茲ニ存スル必要ハ無イト認メマシテ此公共團體ノ精練業ヲ營ム云々ノ第二項ハ全部削除シタ次第デアリマス、次ニ原案ノ第二條ハ同ク全部削除シマシタガ、是モ前申ス通り是モ精練業ヲ免許制度デナク且又地區ヲ限ルト云フコトモ認メマセヌデアリマスカラ、此第二條ハ必要ノ無イモノト認メマシテ全部削除ニナッテ居リマス、次ハ原案ノ第三條、修正案ノ第二條デアリマスガ、本條ニ於キマシテハ「精練質」ト云フ字ヲ一句削除ニナッテ居リマスガ、是ハ元々精練質ト云フモノガ此所ニ這入ッテ居リマスノハ、政府ガ精練業ヲシテ特權的ノ事業ニ致シマス以上ハ、成ルベク精練質ヲ食ラシムルコトハイカヌト云フコトデ、此所ニ精練質ト云フ文句ガ這入ッテ居リマシタガ、之ヲ許可制度ニシテ、自由制度ニスル以上ハ、主務大臣ガ命令ヲ發スル必要ハ無イト思ヒマスカラ、此「精練質」ト云フ字ヲ削ッテ置キマシタ、尙ホ此一條ニ付テ一言申加ヘテ置キマスガ、原案ノ第三條即チ修正案ノ第二條ヲ存スルニ付キマシテハ之ヲ存スルト或ハ此命令ノ發シ様ニ依ッテハ政府ノ原案ノヤウナ結果ニナリハシナイカト云フヤウナ心配ガアルト云フコトデアリマスカラ、特ニ政府委員ニ質問ヲ致シマシテ、政府委員ヲシテ委員會ニ於テ明言サセタコトガアリマス、其明言ヲ要求シタト云フノハ修正案ノ第二條ニ據リマス、此法文ニ依リマスト精練ノ方法、工場ノ設備ニ關シテハ主

務大臣ハ如何ナル命令ヲモ發スルコトガ出來マスルト、或ハ政府ノ最初ノ希望ノ如ク之ヲ一種ノ獨占事業トスルノ目的ヲ以テ工場ノ設備等ニハ種々經費ヲ要シ或ハ種々面倒ナル命令ヲ發シテ、其結果ハ詰リ自由ノ競争ニシテアリマスケレドモ、政府ノ工場設備等ノ命令ノ發シ様ニ依ッテハ、或ハ之ヲ獨占事業ニスルト云フ憂ガアリマスカラ、此點ニ於テハ政府カラ特ニ從來ノ精練方法、即チ日本雜ヲ用井ルトカ、或ハ籐張ヲスルトカ、或ハ炭火乾燥ヲスルト云フコトハ、成ルベク禁止サセナイ、併ナガラ之ニ注意ヲ加ヘテ在來ノ方法ニ依ッテ生ズル弊害ハ成ルベク除クコトニ注意ハ致シマスルガ、在來ノ精練方法ハ全ク禁ズルコトハシナイト云フコトヲ政府ハ明言イタシマシタ、次ハ修正ノ第三條ハ原案ノ通り、原案ノ第五條ハ全部削除ニナリマシタガ、是モ同ク前申シタ如ク特許制度ト云フモノヲ認メマセヌカラ、從ッテ第五條ハ必要ノ無イコトニナリマス故ニ削除イタシマシタ、其次ガ原案ノ第六條、修正案ノ第四條デアリマスガ「相續ニ因リ」ト云フ文字ヲ削リマシテ「又ハ廢止シ」ト云フ五字ヲ入レマシタノハ此「相續ニ因リ」ト云フ字ノ削除ハ是モ前申ス如ク特許制度デアリマスレバ此必要ガアリマスガ、是ガ許可制度ニナリマスレバ「相續ニ因リ」云々ト云フ文字ハ必要ガアリマセヌカラ削除シタノデアリマス、「承繼シ」ト云フコトガアレバ又廢止スルト云フコトガアリマセヌカラ「又ハ廢止シ」ト云フ文句ヲ此所ニ附加ヘタ次第デアリマス、「主務大臣」ヲ「地方長官」ニ變ヘマシタノハ修正案ノ第一條ガ「地方長官」ニ願出テ「トナッテ居リマスカラ、自然此主務大臣ハ地方長官ニナラナケレバナラヌト云フノデ修正イタシマシタ次第デアリマス、ソレカラ第七條第八條ハ是モ同ク政府原案ニハ免許制度デアリマシタカラ、斯ノ如キ嚴重ナル制裁ガ必要デアッタノデアリマスガ、其免許制度ヲ認メマセヌ以上ハ第七條第八條ハ全然必要ノ無イ條項デアリマスカラ、是モ全部削除イタシマシタ次第デアリマス、第五條ニ「及地方長官」ト云フ文字ヲ入レマシタ、免許制度ヲ許可制度ト云フコトニシマシタコトハ、既ニ前ニ第四條ニ關シテ申シタ説明ト同ジ理由デ、第五條ハ斯ノ如ク修正ニナッテ次第デアリマス、尙ホ修正案ノ六條ノ罰金「百圓」ト云フノ「五十圓」ニ減額イタシマシテ其犯罪ニ係ル器具ヲ沒收スルト云フ條項ヲ削除イタシマシタノハ是モ免許制度デアレバ罰則モ嚴重ニスル必要ガアリマスガ、是ガ許可制度ニナッテ自由競争ニ任セル以上ハ斯ノ如キ器具機械ヲ沒收スルコトヲ置ク必要ハ無カラウト云フノデ、斯ノ如ク沒收ノ文字ヲ削除ニナ

リマシタ、其他各條ニ互リマシテ罰則ノ所デ此罰金ノ程度ヲ低メマシタノハ一ツハ免許制度ヲ廢メタ爲デゴザイマス、又他ノ理由ハ他ノ法令ノ罰則ヲ参照イタシマシテ、政府提出ノ案ハ少シ罰金ノ高ガ酷ニ失スルカラ罰則ノ各條項ニ互ッテ罰金ノ高ヲ減ジタ次第デアリマス、第十一條第十二條モ即チ免許制度ヲ廢シマシタ結果デアリマス、斯ノ如ク嚴重ナル條項ヲ設ケル必要ハ無イト認メマシテ、第十一條第十二條ヲ削除イタシマシタガ、其他政府原案第十三條ヨリ附則ノ前ニ至リマスルマデ重モニ罰則デアリマスガ、此罰則ニ於キマシテハ今申シタ如ク罰金ノ高ヲ少シク低メニシタダケデ、他ハ政府ノ原案通りト御承知ヲ願ヒマス、其次ハ原案ノ第二十條、修正ノ第十四條ニ於キマシテ茲ニ「輸出」ト云フ文字ヲ二字加ヘマシタノハ、此本案ノ題目ガ既ニ輸出羽二重ト云フデアリマスカラ是モ「輸出紋絨及輸出薄絹」トシテ置イタガ法文ノ體裁モ宜カラウト云フノデ茲ニ輸出ト云フ文字ヲ加ヘマシタ次第デアリマス、「其ノ他主務大臣ノ指定シタル輸出絹織物」ト云フ字ヲ削除イタシマシタノハ、此文字ヲ存シテ置キマスルト、主務大臣ノ指定次第即チ西陣ノ織物ノヤウナモノニモ此法律ヲ準用シタリ、或ハ他ノ種々ノ織物デアッテ僅ニ輸出ヲスルモノマデ、此法案ヲ準用サレテハ隨分當業者ガ不便ヲ感ズルコトガアリマスカラ、主務大臣ノ指定シタル絹織物云々ト云フ文字ヲ削除シテ置キマシテ、輸出羽二重ノ如キ多額ノ輸出ヲスル織物ヲ生ジタ場合ニハ其際、法律ヲ以テ此法案ヲ準用イタシマスコトガ出來マスニ依ッテ、茲ニ於テハ「其ノ他」以下ノ文字ダケヲ削除シタ次第デアリマス、第二十一條ノ削除ハ本案ノ第一條ノ公共團體ニ於テ羽二重ノ精練業ヲ營ムト云フコトヲ否認イタシマシタカラ、從ッテ第二十一條モ自然ト削除イタシタ次第デアリマス、ソレカラ附則ニ於キマシテハ政府ノ原案ノ附則全部ヲ削除イタシマシタ次第デアリマスガ、附則第二十二條ノ地區ヲ限リテ施行スルト云フノハ、若シ政府ノ原案ノ如ク免許制度デアラナラバ地區ヲ限ルコトガ必要デアラウガ、本案修正ノ如クニナリマスルト地區ヲ限ル必要ハ無イト云フノデ第二十二條ヲ削除ニナリマシタ、ソレカラ第二十三條モ是モ同ク削除イタシマシタ、サウシテ新ク第十五條第十六條ヲ入レマシタノハ、此第十五條ハ此本法ヲ施行スルニ付キマシテハ營業者ニ多少猶豫ヲ與ヘナケレバナナルマイト云フノデ、第十五條ヲ入レタノデアリマス、其猶豫ト申シマスノハ本法ヲ施行イタシマスト多少從來ノ精練ノ方法デハイケナイ、多少設備ニ改良ヲ加フル等ノ注意ガ當局者

ヨリアルドラウト考ヘマス、ソレカラ改良ヲ施シマスニハ多少時日ヲ與ヘルノガ必要デアラウト云フ考デアリマシテ、此一年間ト云フ猶豫ヲ茲ニ附ケテ、成ルベク當業者ニ不便ヲ感セシメザル爲ニ第十五條ヲ設ケマシタ次第デアリマス、第十六條ハドノ法律ニモアリマス通り本法ノ施行期日ヲ定メタダケデアリマス、先ヅ大體ニ於テ委員會ノ修正ニ付キマシテ御報告ニ及ビマスルノハ斯ノ如キモノデアリマスルガ、前ニモ申シマシタ如ク本案ハ政府ノ提出當時ノ案トハ根本的ノ修正デアリマスルガ、併ナガラ政府モ之ニ同意ヲサレタ次第デアリマスカラ、成ルベク委員會ノ修正通りニ諸君ニ於テモ御賛成アラムコトヲ希望イタシマス

○男爵伊達宗敦君 チョット委員長ニ御尋ネシマスガ、特許制度ヲ許可制度ニスル、即チ政府案ヲ根本的カラ改正サレタト云フガ、特許制度ヲ廢シテ許可制度ニスルト云フ御趣意ガ能ク聽取レマセズデゴザイマス、分リマセヌノデゴザイマス、デ其趣意ヲ伺ヒタイ、ソレカラマデアリマス、次ニハ命令ト云フコトニ付テ政府ノ命令ト云フコトヲ委員會デ確メテ政府委員ニ明言サセタトカ説明サセタトカ仰シヤッタガ、其事モ能ク伺ヒテ置キタイ

○伯爵廣澤金次郎君 伊達男爵ニ御答イタシマスガ、今免許制度ヲナゼ許可制度ニシタカト云フ御尋ネデアリマスルガ、無論免許制度デ之ヲ獨占事業ニスルト云フコトハ伊達サンモ御反對デアラウト思ヒマス、許可ト云フ文字ヲナゼ置イタカト云フト許可ヲ與ヘルコトダケハ地方長官ノ權内ニ置キマセヌト、詰リ今マデノ通りニナリマシテ殆ド取締ヲスルコトガ困難ダラウト思ヒマスカラ、地方長官ニ許可ヲ與ヘルダケノ權力ヲ存シタ譯デアリマス、二條ノ命令ニ付テ先キホド申上ゲタノハ、本案ガ施行ニナリマス主務大臣ノ命令デ精練ノ方法、工場ノ設備等、之ニ對シテ命令ヲ發スルコトガアリマスカラ、其場合ニ急激ニ工場ノ改良トカ或ハ急激ニ精練ノ方法ヲ改良スルト云フヤウナコトモ成ルベクシテ貫ヒタクナイト云フ考ヲ以テ當局者ニ明言シテ貫ツタノデアリマス、當局者モ此改良ニ就テハ成ルベク寛大ノ處置ヲ取ツテ漸々當業者ヲ改良ニ導ク方法ヲ取ルト云フコトヲ明言サレタノデゴザイマス

○男爵伊達宗敦君 モウ一應……特許制度ノコトニ付テハ分ラナイ話デアアルカラ〔聽取シ難シ〕ソレカラ此案ハ委員長ノ御述ベニナル通り根本的カラ修正ト云フノデハナイ、殆ド拵ヘ直シタノデアアルガ、修正ニ或ハ政府ガ同意シタト仰シヤルガ、是ハ此案ヲ人間ノ體ニ喩ヘテ見ルト足ラ片ツ方切ッタヤウナ譯

デ跋コニナツテ満足ニ歩クコトガ出來ナイ、死ニキリモシナイ、私ドモハ能ク調ベテ居リマセヌカラ分リマセヌガ、言ハバナマ殺シト云フヤウナ御修正カト思ヒマスガ、果シテ是デモ歩イテ行カレルト云フ御考デアリマセウカ、ソレヲチョット御尋ネシマス

○伯爵廣澤金次郎君 唯今ノハ委員長ニ對シテノ御質問デアリマシタカ
○男爵伊達宗敦君 ソレナラバ私ハ此案ニハ絶對ニ反對デアリマス、コンナモノデハ歩ケマセヌ

〔伯爵徳川達孝君發言ノ許可ヲ求ム〕
○議長(公爵徳川家達君) 徳川伯爵ハ何デスカ

○伯爵徳川達孝君 委員長カラ御述ベデゴザイマスガ、政府當局大臣ハ之ニ付テ同意スル所ノ理由ヲ御述ベニナラナイノデスカ、如何ナルコトデアリマスカ、成ルベク御述ベニナツタガ滿場諸君モ御分リニナラウト思ヒマスカラ御述ベニナルコトヲ希望イタシマス

〔國務大臣松岡康毅君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(松岡康毅君) 此修正ヲ加ヘラレマシタ案ニ付キマシテ政府ハ同意ヲ致シマシタ、今伊達男爵ノ仰シヤルニハ手ヲ切り足ヲ切り歩ケマイト云フ御懸念ガアリマシタケレドモ、人間ナラサウ云フコトモアリマセウケレドモ、此法律案ニ於キマシテハ比較イタシマスレバ嚴重ナモノガ幾分カ柔カクナツタト申スノデ、行ヒマスルノニハ少シモ差支アリマセヌ、又目的ヲ達シマスル上ニモ大シタ違ヒハアリマセヌ、尙ホ是デ實行イタシマシテ若シヤ不足ガアリマシタラ、其節ニ別段ニ法律ノ改正ヲ要求イタシマスルカモ知レマセヌガ、此修正案通りデ實行イタシマスレバ大抵目的通り達シ得ルダラウト思ヒマスノデ、修正通り全部同意ヲ致シマシタノデ、ドウゾ諸君ニ於キマシテ御賛成アラムコトヲ併セテ希望イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 本案ヲ第二讀會ニ移スベキヤ否ヤノ決ヲ採リマス、第二讀會ニ移スベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 多數ト認メマス

○子爵鳥居忠文君 直ニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵大田原一清君 賛成

○子爵三島彌太郎君 賛成

〔其他〕贊成「ト呼ブ者多シ」

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第二讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ直ニ第二讀會ヲ開キマス、全部ヲ問題ニ供シマス

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 委員會ノ修正ヲ可トスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 多數ト認メマス、是デ第二讀會ハ終リマシタ

○子爵鳥居忠文君 直ニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○子爵大田原一清君 贊成

〔其他〕贊成「ト呼ブ者多シ」

○議長(公爵徳川家達君) 直ニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ直ニ第三讀會ヲ開キマス

○千坂高雅君 三讀會ノ前ニ當リマシテ、私ハ一個ノ希望ヲ内務大臣ト農商務大臣トニ述ベテ置キタイ、誠ニ短簡ナ事デゴザイマスガ、舊ノ三條、新ノ

二條デゴザイマス、過刻伊達男爵モ何カ餘ホド御心配ニ見エマシタガ、本員モ餘ホド頭ヲ痛メルノデアリマス、ナゼナレバ行政處分デ命令或ハ規則ヲ立

テマス、イツデモ獨占ノ方ヘ近ヅイテ持ッテ行クコトガ出來ル法律デゴザイマス、ソレデ委員會ニ於キマシテモ委員長ノ報告ノ如ク既ニ擴張、炭火乾

燥、是等ノ事ハ一般ニ許スト云フコトハ委員會ニ於テ明言ガゴザイマシタガ、一般全國ニ改良ヲ施サル、上ニ付テハ成ルベク漸ヲ以テ施スト云フコト

ニシテ戴キタイ、ソレカラ今一ツハ内務大臣ニ御關係ノコトデアリマスガ、此府縣其他ノ公共團體ト云フコトハ、原案ハ削除シテ居リマス、削除ハシテ

居リマスガ、現ニサウ云フコトニ向ヒツ、アル縣モアルヤウニ開エマス、是ハ本員ナドハ甚ダ宜シクナイト考ヘマス、此一地方：一縣或ハ一市ノ全般

ニ關スルコト「聽取リ難シ」一個一人ノ營業ヲシテ公共團體ノ縣ヤラ市ヤラ營利的ノ事業ヲ爭フト云フモノハ甚ダ宜シクナイ、但シ地方稅或ハ市稅ヲ以テ

地方ノ營業ヲ補助スルノハ是ハ苦シクナイ、苦シクナイガ、自ラ此營利事業ヲ營ミ、全國ノ營業者ト爭フト云フコトハ宜シクナイカラ、是ハ削除シテアルニ拘ラズ現在其方向ニ向ッテ居ル所ガゴザイマスカラ、以來ハ内務大臣ハ御認可ナイヤウニ、地方官モ認可セヌヤウニ、農商務省モ此方針ニハ御向キナサラヌヤウニ希望シテ全部ヲ贊成イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 第二讀會ノ決議通り御異議ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ是デ第三讀會ハ終リマシタ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十九ニ移リマス、韓國ニ於ケル裁判事務ニ關スル法律案、政府提出、第二讀會、全部ヲ問題ニ供シマス

○關義臣君 少シ修正ノ意見ガアリマスガ發言ノ許可ヲ願ヒタウゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 宜シウゴザイマス

〔關義臣君演壇ニ登ル〕

○關義臣君 私ハ唯今出テ居リマス法律案ニ對シマシテ少シク修正ノ意見ヲ有ッテ居リマスカラ暫ク諸君ノ御清聽ヲ冀ヒマス、其修正ハ他デアリマセヌガ、謂ハユル當法律案ノ第六條ニ關スル事デアリマス、此六條ニ關シマシテハ過日第一讀會ニ於キマシテ本員ガ質問ヲ致シマシタ、其質問ニ對シテ政府委員ノ御説明ガアリマシタ、所ガ右御説明ハドウモ法律ノ御解釋ガ間違ッテ

居ルヤウニ思ヒマス、ト云フモノハ此六條ハ構成法ノ六十九條七十條ニ倣ウテ書イタノデアルト云フ御説明デアアル、又ソレニ色々附屬シテアリマスガ、其説明ニ付キマシテハ恐ラク間違ウテ居ルト思ヒマスルノデ、本員ハ其節尙

ホ質問ヲ發スル積デアリマシタケレドモ、政府委員ノ説明後ニ平山君其他ドナタカ續々質問ガ出マシテ、遂ニ發言ヲ求ムル機ヲ失ヒマシテ、今日ニ至リマシタニ付キマシテ、今日ハ少シク修正ノ意見ヲ述ベマス、述ベルニ付キマシテハ政府委員ノ説明ヲ甚ダ攻撃スルノデアリマセヌケレドモ、已ムヲ得

ズ修正ノ意見ニ付テハ政府委員ノ説明ヲ反駁イタヌヤウナコトニモナリマスカラ、此段ヲ豫メ御斷リ申シテ置キマス、政府委員ハ此「タル者」第六條「五年

以上」何、辯護士タル者ニ非サレハ此說明ヲ前會即チ第一讀會ニ本員ニ對スル政府委員ノ答ガ速記録ニアリマスカラ、御承知デモゴザイマセツガ、

申上ゲマス

此第六條ハ裁判所構成法第六十九條、第七十條ノ規定ニ倣ッタノデアリマシテ、裁判所構成法ニ於キマシテモ例ヘバ第六十九條ニ於キマシテハ「五年以上判事タル者」第七十條ニ於キマシテハ「十年以上判事タル者」ト「タル者」ト云フ文字ヲ用キテ居リマシテ、過去ノ「タリシ者」ト云フコトハ明言シテ居ラスノデアリマス、併ナガラ此裁判所構成法ノ解釋ニ就キマシテハ矢張り、現ニ判事デアル者或ハ判事デアリシ者併セテ含ムコトニ、從來解釋シ來テ居ルノデアリマスカラ、第六條ヲ斯ノ如ク修正ニナリマシテモ、矢張り現ニコレノ「デアル者」ト云フノミナラズ……

斯ウ云フ政府委員ノ説明デアリマス、是ハ甚ダドウモ了解ニ苦ムノミナラズ實ハ驚人御説明ト本員ハ見テ居ル、第一、是デ見マス構成法ノ六十九條、七十條ニ倣ウタトアリマスケレドモ、構成法ノ六十九條、七十條ト云フモノハ諸君モ御承知デアリマセウガ、構成法六十九條ト云フモノハ「五年以上判事タル者」トシテアル「又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ニ非サレハ」トアル、七十條モ「十年」ト變ルバカリデア、此「五年以上判事タル者」ト云フコトニ付キマシテハ判事以外ノ人ト同ク「タリシ者」トハ言ハレナイ、裁判官ト云フ者ハ終身官デア、謂ハユル御承知ノ通り憲法ノ五十八條、構成法ノ六十七條ニ於テ即チ其官ヲ終身トシテ居ル、決シテ裁判官ニ「タリシ」ト云フ文字ハ無い、裁判官ハ終身官、死ヌマデノ裁判官ノ人デア、併シ之ニ取除ケノアルト云フコトハ御承知ノ通り構成法ノ七十三條、七十四條ト取除ケガアリマス、併ナガラ七十三條ニ於テハ御承知ノ通り刑事ノ宣告ヲ受ケタリ、或ハ懲戒裁判ノ處分ヲ受ケテ、モウ不具的ノ人ニナッタ者ハ免官シテ居ルニ違ヒナイ、是ハ免官シテ不具的ノ裁判官デ、再ビ斯ウ云フ法律ニ載ッテ來テ選舉シナイ部分デア、又七十四條ト云フモノハ、御承知ノ通り裁判官ガ老衰シテ謂ハユル身體ノ衰弱、精神ノ衰弱シテ其事ヲ執ルコト能ハザル者ニ對シテハ控訴院ナラバ控訴院ノ總決議、大審院ナラバ大審院ノ總決議ヲシタ結果、司法大臣ハ退職ヲ已ムナク命ズルノデア、七十四條ノ取除ケニシテモ一體此裁判事務ヲ執ルコトガ出來ナイ、既ニ精神身體ノ衰弱デア、是亦再ビ裁判官ト云フ譯デハ無いト見テ宜シイノデア、ソレ故ニ裁判官ト云フモノハ全ク終身官デア、裁判官ニ持ッテ行ッテ「タリシ」ト云フコトハ言ヘスノデア、此「タル」ト「タリシ」トノ分別アルコトハ諸君モ御承知ノ通りデ、併ナガラ構成法ノ我々創立時分ノコトヲ考ヘル

ト、今政府委員ハ構成法ノ解釋ニ付テハ矢張り現ニ判事デア、或ハ判事デアリシ者トアリマスルガ、イヤ是デス、一體此構成法ノ創立ノ時分ハ本員モ幸ニ其頃十年以上大審院ニ居リマシタ、此構成法創立ノ時分ハ屢耳ニシテ居ッタコトモアリ、又或ハ法律諮問會ガ出來マシテ諮問委員ニ命ゼラレテ居ッタコトモアリマスルガ、隨分是ハ創立時分ニ喧マシカッタ、何カ耳ニシテ居ル所ハ構成法ニ矢張り判事ヲ五年以上、判事又ハ檢事、帝國大學教授若クハ辯護士ニシテ、ト云フヤウナコトモ話モアッタサウデア、ケレドモ、判事ト云フ者ハ「タリシ」ト云フ過去ノ言葉ヲ入レルコトハ出來ヌノデ、判事ダケ殊更ニ六十九條モ、七十條モ「判事タル者」デ切ララレタノデア、ソレカラ判事以外ノ檢察官、大學教授、辯護士、或ハ判事以外デ、是ニハドウモ休職ノ者モアリ、固ヨリ職ヲ罷メテ居ル者モアル、再ビ用弗ルコトノ出來ル履歷ヲ持ッテ居ル者……ソレ故ニ此普通ノ人間ノ方ニハ辯護士タリシ者ト云フコトデアリマシテ、裁判官ハ此中ニ這入ラヌノデア、是ハ明ナコトデア、ソレハ併ナガラ本員ガ記録ト申シテモ、ラカシウゴザイマスガ、其節ノ創立委員ガ多分死ナレタケレドモ、マダ幸ニ現今本院ノ議員ニナッテゴザル當時ノ元老院議員村田保君、當時ノ元老院議員渡正元君ナドガ、即チ其折ノ創立所ガ其記録ノコトヲ申上ゲルヨリモ第一、此文面ガドウ讀メマセウ、政府委員ガ據ッテ居ル六十九條、七十條ノ文面ハ今讀ンダ通り「五年以上判事タル者」又ハ五年以上檢事帝國大學法科教授若ハ辯護士ニシテ判事ニ任セラレシ者ト立派ニ二ツニ書分ケテアル、文字ヲ知ッテ居ル人ハ之ヲ混ジテ讀ムコトハアルマイ、又此日本ノ「ランゲージ」——固有ノ國語ノ上ノ働詞ニ於キマシテ「タル」ト「タリシ」ト云フコトヲ分明ニ出來テ居ル、ドンナ人モ知ッテ居ル、大言シテ見レバ三尺ノ童子モ知ッテ居ルコトダ、其「タル」ト云フノ「タリシ」ヘ入レルコトハ出來マイ、サウ云フ大和言葉ノ働詞ニハ無い、ソレヲ政府委員デハ「タル」ノ中ヘ「タリシ」ヲ入レテ居ルカラ現今ノ人モ嚮ニ在職シタ過去ノ人モ籠ム、斯ウ云フ説明ト云フモノハ驚人タタモノトハ言ハザルヲ得ス、全體判事ニサウ云フ人ハ無い筈デア、所ガ此速記録ニアル通り或ハ判事デア、或ハ判事デアリシ者ヲ併セ含ンデ居ル、斯ウ云フコトデアリマス、其事ガ含ンデ居ッテモ判事ト云フ者ハ取除法ノ嚮ニ申上ゲタ精神ノ衰弱、然ラザレバ刑事裁判ヲ受ケラレタ者ニ限ル、含ンデ居ルト云フコトハナイ

譯、是ハケシカラヌ話デア、ソレデ歐羅巴人モ言ッテ居ル、此法律ニ付テハ隨分解釋ノ二様ニ出ルコトガアル、ソレハ畢竟法律ハ簡古ノ文ヲ貴ブカラシテ間違フノデアルカラ、願ハクハ法律ハ間違ハヌヤウニ明ニ書キタイ、サウシテ見レバ簡古ニシテ明瞭ナコトガ出来ヤウト思フノデア、若シ唯今第六條ガ此通りデ是ガ可決シタ時ニハ他日ニナッテ、辯護士タル者、五年以上判事檢察事、判事檢察事ト斯ウ續イテ判事、檢察、帝國大學法科大學教授、理事官、副理事官、又ハ辯護士タル者ニ非サレハ評定官又ハ檢察官タルコトヲ得ス」トアルガ、是ハ他日ニ於テ疑ヒヲ挿ムヤウニナルノミナラズ、現今職ニ居ル者ニ限ル從前ノ者ハイケナイトナルト本員ハ明白ニナルト思フ、僅カナ字ヲ足シサヘスレバモウ明白ニナルノデア、政府委員ノ御説明ニ對シテ攻撃ヲ加フル如キ姿デ、甚ダ本意外デアリマスケレドモ、已ムコトヲ得ズ此法律保護ノ爲ニ一言セザルヲ得ヌデ、諸君ノ御清聽ヲ冒シタシテアルガ、決シテ、構成法ノ六十九條七十條ニ徴ウテヤッタトカ言ハレルガ、構成法ノ六十九條七十條ハ決シテ政府委員ノ辯解ノ通りデハナイ、政府委員ガ間違ウタ解釋ヲシテ、其間違ウタ解釋カラ起ッテ斯ウ云フ間違ノ法律ヲ生ミ出シタノデ、是ハ容易ナラヌコトト思ヒマス、ソレ故ニ此修正ヲ本員ハ求メル譯デアラマスガ、僅カナ修正デ、此「タル者」トアルノ「タリシ者」ト直スノデア、サウシテ見ルト「五年以上判事、檢察」ト續イテアリマシテハ法律家ノ批評：「裁判官其人ヨリモ批評ヲ招グト思ヒマスカラ、是ハ矢張り政府委員ガ構成法ニ據ッタト言ハル、ガ、ソレナラバ構成法ニ據ッテ判事ハ別ニシテ「五年以上判事タル者又ハ五年以上判事、帝國大學法科大學教授云々辯護士タリシ者」斯ウ矢張り二段ニ修正ヲ致シタイノデアリマス、本員ガ修正ヲ朗讀シマスカラ御聽ヲ願ヒタイ

第六條 五年以上判事タル者又ハ五年以上判事、帝國大學法科大學教授、理事官、副理事官、辯護士タリシ者ニ非サレハ評定官又ハ云々

斯ウ云フ修正、併シ修正ノ字ハ僅カナモノデ、タル「ト云フヲ」タリシ「トシタ故ニ判事ノ所ヘ」タル者又ハ「斯ウ入レタダケデアリマシテ、五年以上判事タル者又ハ五年以上判事、帝國大學法科大學教授、理事官、副理事官、辯護士タリシ者ニ非サレハ」斯ウ云フ修正ノ積リデアリマス、甚ダ本員ハ御承知ノ訥辯デ、ドウモ意アッテ口言フ能ハズ、御分リニクカッタデヤラウト思ヒマ

質問ニ應ジマス、又自然御分リデアリマスレバ是デ壇ヲ降りマスルガ、ドウゾ諸君ノ御賛成ヲ願ヒマス、決シテ是ハ本員一己ノ願ヒデハナイ、法律ガ是ダケノコトニセネバ分ラヌノデアリマス、ドウゾ法律保護ノ爲ニ御賛成ヲ願ヒマス

○奥山政敬君 今、關君ノ修正ガ出マシタガ、チヨット質問ヲシテ見タイモノデスガ、格別必要モ無カラウト思ヒマスガ、質問ヲシロト云フコトデアリマスカラ御望ミニ依ッテ質問イタシマスガ、第一ニ第六條ヲ修正サレルニ付テ、判事デアッタト云フ者ハ無イ、判事ノ職ニ在リタル者ハ無イト云フコトヲ再三繰返シテ言ハレマシタガ、是ハ非常ナ間違デハアルマイカト私ハ考ヘルノデアリマス、ソレデソレダケノ御答辯ヲ願フノデアリマス、其例ハ澤山アルト思ヒマスカラ、チヨット茲デ指ヲ折ッテ數ヘテモ澤山アルト思ヒマス、先ヅ第一ニ國務大臣ヲシテ居ラル、所ノ松岡康毅君、ソレカラ波多野敬直君、ソレカラ高木豐三君、何レモ判事デアッタノデアリマス、判事タリシ者ハ無イト言ハレマスガ現ニ私ハ有ルト思ヒマスガ、關君ハ如何デゴザイマス

○關義臣君 ソレハ現在數ヘルニ當ラヌ、現ニ本員ガ即チ十餘年判事デ居リマシタ、全體アナタ、私ハ是ガ即チ不辯カラ出ルノデ、何モ判事ノ資格ハ拔ケテ居ルノデ、畢竟法律上ノ話デ、先刻申シマシタ構成法ハ即チ判事タル者ハ非職ハ無イモノト見テ、法律ハ判事ノ職ヲ罷テ考ハ無イモノト見テ立テタ様デアリマス、ソレハ私ハ申上ゲマシタ、或ハ私ノ申シ様ガ足ラヌカ知ラヌガ、判事ハ終身官、サウデナケレバ、七十三條、七十四條：「アナタニシテモ私ニシテモ資格ハ拔ケタ、是ハ法律ニ關係シタコトデヤナイ、今指ヲ折ラレタ方ミハソレハアリマス、其論トハ私ハ違ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 關君ノ修正說ニハ贊成者ガゴザイマセスカラ問題ト相成リマセヌ、全部贊成ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵徳川家達君) 過半数ト認メマス、是デ第二讀會ハ終リマシタ

○子爵岡部長職君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ：

○名村泰藏君 贊成

〔其他贊成ト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議アリト呼ブ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 然ラバ直チニ第三讀會ヲ開キマス、二讀會ノ決議
通り御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシ〕ト呼ブ者アリ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイモノト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 是デ本日ノ議事日程ハ終リマシタ、唯今内務大
臣ガ發言ヲ求メラレマシタ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 曾我子爵ノ凶作地ノ事ニ關スル御質問ニ御答ヲ致シタ
イト考ヘマスルガ、願ハクハテヨト其御趣意ヲ再ビ承リタクゴザイマスル
ガ、餓死スル者ガ現ニ有ルカ無イカト云フヤウナ御尋デアッタ承リマシタ
ガ、果シテ其點デゴザイマセウカ一應承リタイ

○子爵曾我祐準君 昨日委員會ニ於テ御尋申シマシタ趣意ハ、東北ノ饑饉ハ
近年稀ナル饑饉ノヤウニ承リマスガ、ソレニ付テ政府ハ如何ナル救恤ノ方法
ヲ御執リナサツテ居ルカ、地方官ニ命ジテハ如何ナル事ヲ爲サシメテ居ルカ、
又新聞ナドニ於テ餓死スル者ガ有ルヤウニ見エテ居リマスガ、果シテ事實デ
アルヤ否ヤ、ソレハ内務省ニ於テハ十分ニ報告ヲ得テ居ラル、デアラウカ
ラ、詳細ノ有様ヲ承リタイ、斯ノ如キ趣意デアリマス

○國務大臣(原敬君) 凶作地ノ救濟ニ關シマシテハ昨年來、政府ハ出來得ル
ダケノ手段ヲ盡シテ救濟ヲ講ジテ居リマスルガ、其中ノ一二ヲ申シマスレ
バ、各三縣ニ於テ耕地整理其他ノ事業ヲ起シマシテ細民ニ相當ノ賃金ヲ得テ
生活シ得ルヤウナ便利ヲ圖ルト云フコトモ一ノ方法デゴザイマス、又穀物ニ
乏シイ、即チ食糧ニ困難ヲ致シテ居ル者ヲ差向キ救ハムガ爲ニハ日露戰役ニ
際シテ貯ヘマシタ糧食中、不用ニ屬シタル物ヲ分配イタスト云フヤウナ方針
モ執ツテ居リマス、又隣保相救フノ方法トシテ寄付金等モ受ケマスルカラ、是
モ相當ノ高ニハナラウト思ヒマス、得ルニ從ツテ救恤イタシテ居リマス、又
御承知ノ通り此凶作地ニ對スル免租ノ法案モ提出ニナリマシテ、是ニモ同意
ヲ表シテ其事ニ相成リマシタガ、尙ホ教育ノコトニ就テ資金ヲ要スルト云
フ次進デアリマス、是亦以テ今日ニ於テハドウカ致サウト云フ考ヘテ以テ調
査イタシテ居リマス、元來此凶作ニ就テ困難ヲ致ス所ノ人民ノ數ト申ス者

ハ、何分正確ナル數字ヲ得マセヌ、ト申スモノハ警察デ調査イタシマシタ所
ト郡役所等デ調査イタシマシタ所ト其場所ヲ異ニシ人ヲ異ニシ時ヲ違ヘテ居
リマスルガ故ニ、ドウモ正確ナ數ヲ得マセヌガ、併ナガラ昨年十一月頃調査
イタシマシタ所ト、此二月中旬頃ニ調査イタシマシタ所ノ數ニ依ツテ見マス
レバ、最初ニ得マシタ所ノ數字ヨリハ段々減少ヲ致シテ居ルヤウデアリマ
ス、是ハ畢竟政府並ニ地方ニ於テ救濟ノ途ヲ講究イタシマシタ結果デモアラ
ウカト思ヒマス、サリナガラ是トテモ最初ニ得マシタ所ノ數字ガ正確デ無イ
以上ニハ果シテ然リト斷言ハ出來ヌ次第デアリマス、兎ニ角ニ今日ニ於テハ
出來得ルダケノ方法ヲ以テ救濟ヲ講究イタシテ居リマス、其今日マデ實施イ
タシマシタ所ノ成績ニ就テ調査イタシマシタモノモアリマスルガ、是ハ曾我
子爵ガ御希望デアリマスレバ、後ニ差上ゲマシテモ宜シイ次第デアリマス、兎
ニ角十分ナル方法ヲ以テ救濟ヲ完ク致シタイト云フ考ヘデ、アラユル手段ヲ
盡シテ居ルト御了願ヒタイ、新聞紙等ニハ餓死スル者ガ段々アルヤウニ
傳ハリマスルニ依ツテ悉ク其實否ヲ地方ニ糺シテ居リマスルガ、今日マデ得タ
所ノ報告ニ依ツテハ此饑饉ノ爲ニ餓死イタシタト云フ者ハ見當リマセヌ、新
聞紙等ニ餓死シタト云フコトガアリマスルニ依ツテ糺シテ見マスルト、或ハ
普通ノ行旅病者デアリマシタリ、其他特別ナル事情ニ依ツテ斃レテ居リマシ
タ者ガアリマス、現ニ一二ノ例ヲ申セバ、其家族ガ數人アリマシテ今日ノ生
活ニ食料ヲ得ナイト云フヤウナ狀況デアリマス、其中ニ老人ガ或ル場所ニ於
テ斃レタ、直チニ饑饉ノ爲ト認メル者モアリマスガ、調査シテ見レバ斯ノ如
キ次第デアルト云フヤウナコトデ、今日マデノ報告ニ依ツテハ餓死スル者ガ
アルトハ認メマセヌ、ケレドモ御承知ノ通り東北三縣ハ雪國デアリマシテ、
殊ニ當年ハ雪ノ多イ年デアリマス、事業ヲ起シテ賃錢ヲ與ヘルト申シマシテ
モ、其事業ヲ起スノニ甚ダ不便ナルコトモアリマスルノデ、萬一餓死スル者
等ガアツテハ相成ラス次第デ、十分ニ其點ハ注意ヲ致サセテ居リマス、デ先
頃地方官ヲ召集イタシマシタ折ニ、三縣ノ知事ニハ特ニ訓令ヲ致シマシテ、
救濟ノ十分ニ届クヤウニ注意ヲ致サセ、尙ホ世間ニ往々誤リヲ傳ヘマスルノ
ハ畢竟真相ヲ知ラス爲デアラウト考ヘマスカラ、出來得ルダケ詳ニ、又速ニ
世間ニ報告シ得ルダケノモノヲ提出イタセト申シテ置キマシタ、得ルニ從
テ官報新聞紙等ニ依ツテ公ケニ致ス考ヘデ、既ニ公ケニ致シタモノモアリマ
スカラ、是ニ依ツテ段々凶作地ノ實況ガ世間ニ知レ渡ルデアラウト考ヘマス、

今日ハ左様ナ次第アリマス、然ルニ幸ニシテ各地ノ慈善家ヨリモ段々寄付モアリマスシ、又海外等ヨリモ多額ノ寄付金ガアルヤウニ思ヒマスガ、斯様ナル寄付ニ依頼イタシテ窮民ヲ救フト云フコトヲ等閑ニ致スト云フ次第デハアリマセヌガ、是亦以テ大イニ救済ニ助ケヲ致シマシテ慈善家ノ意思ヲ完ウスルヤウニ效力ヲ現ハスデアラウト考ヘテ居リマス、其外各地ニ於ケル狀況ヲ詳シク申シマスレバ此所ニ調ベタ物モアリマスケレドモ、大體左様ナル次第一方ニハ事業ヲ起シテ窮民ニ業ヲ授ケ、一方ニハ直接糧食ト云フモノヲ與ヘテ救フノ手段ヲ講究イタシ、其手段ハ其地方デ得ルモノ、又慈善家ヨリ得ルモノヲ以テシ、又罹災基金等ヨリ支出イタシタモノモアリマス、斯様ナル方法ヲ以テ救済ノ途ニ十分努メツ、アル次第デゴザイマス、尙詳細ニ涉リマスレバ調ベテゴザイマスケレドモ、唯今申上ゲタヤウニ御希望ニ依ッテ差上ゲテ宜シウゴザイマスガ、大體右様ナル方針ヲ執ッテ救済ヲ努メツ、アル次第デアリマス、世間デ申スガ如ク饑渴デアルハ、餓死スル者ガ續々出來ルデアラウト云フヤウナ憂ハ先ヅ以テ今日ノ所デハ無イ考ヘデアリマスカラ、是デ大概御了承ト考ヘマス、尙ホ御尋ネガアリマスレバ御答ヲ致シマス

○子爵會我祐準君 唯今内務大臣ヨリ詳ナル御答辯ヲ得マシテ大イニ満足ニ考ヘマス、且ツ餓死等モ新聞ニハ傳ハルケレドモ、ソレハ事實デナイト仰セニナリマシタ、誠ニ結構ナコトデ、若シ饑饉ノ爲ニ餓死者ヲ出スヤウナコトガアリマレバ、實ニ聖代ノ闕典ト考ヘマス、先ヅ斯ノ如キコトノ無イト云フ御説明ヲ得テ甚ダ喜ブノデアリマス、尙ホ此上決シテサウ云フコトノ無イヤウニ尙更御注意ヲ願ヒ置ク譯デアリマス

〔小原書記官朗讀〕

○議長(公爵德川家達君) 先ニ御委託ニ相成リマシタ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

- 内國官憲ノ管掌ニ屬スル事項ニ付統監ノ職權ニ關スル法律案特別委員
 - 子爵鍋島 直彬君 子爵黒田 和志君 三浦 安君
 - 男爵菊池 大麓君 男爵四條 隆平君 田邊 輝實君
 - 谷 森 眞男君 清瀬 善三君 五藤 正形君
- 臺灣總督府鐵道部現金前渡官吏設置ニ關スル法律案特別委員
 - 侯爵池田 詮政君 子爵毛利 元忠君 子爵松平 直敬君

- 小松原英太郎君 男爵尙 順君 何 禮之君
 - 馬屋原二郎君 佐々木嘉太郎君 並木 和一君
 - 貯蓄銀行法案特別委員
 - 伯爵德川 達孝君 子爵稻垣 太祥君 子爵青木 信光君
 - 男爵尾崎 三良君 男爵川口 武定君 武井 守正君
 - 室田 義文君 神野 金之助君 内藤 宇兵衛君
 - 明治三十八年勅令第百九十四號承諾ヲ求ムル件特別委員
 - 伯爵萬里小路通房君 子爵松平 直平君 男爵野田 裕通君
 - 男爵西五辻 文仲君 男爵南 光利君 石井省一郎君
 - 西村 亮吉君 若尾 幾造君 下村辰右衛門君
- 議長(公爵德川家達君) 次ノ議事日程ハ決定次第御通知ヲ申シマス、今日ハ是デ散會イタシマス
- 午後零時四十一分散會